

令和 2 年度（対象：令和元年）自己点検・評価シート

|      |        |
|------|--------|
| 基準 1 | 使命・目的等 |
|------|--------|

I. 自己点検・評価

1-1 使命・目的及び教育目的の設定

1. 自己判定

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の 4 段階で記載してください。

| 項目 No. | ＜上段＞<br>評価の視点<br>＜下段＞<br>自己判定の留意点                     | 自己判定 |    |
|--------|---|------|----|
|        |   | 個別   | 総合 |
| 1-1-①  | 意味・内容の具体性と明確性<br>■使命・目的及び教育目的を具体的に明文化しているか。           | A    | A  |
| 1-1-②  | 簡潔な文章化<br>■使命・目的及び教育目的を簡潔に文章化しているか。                   | A    |    |
| 1-1-③  | 個性・特色の明示<br>■使命・目的及び教育目的に大学の個性・特色を反映し、明示しているか。        | A    |    |
| 1-1-④  | 変化への対応<br>■社会情勢などに対応し、必要に応じて使命・目的及び教育目的の見直しなどを行っているか。 | A    |    |

2. 自己判定の理由

対象年度における取り組みを自己点検・評価し、「事実の説明」として第三者が理解できるように、根拠資料を用いて項目毎に具体的に記載してください。また、長所・特色も記載してください。

| 項目 No. | 事実の説明 及び 自己評価《箇条書き》  |
|--------|--|
| 1-1-①  | <p>四天王寺大学の使命・目的は、建学の精神及び教育理念に基づき、「四天王寺大学学則第 2 条」に「本学は、聖徳太子が四天王寺を創建された精神に基づき、教育基本法および学校教育法に則り、深く専門の学術を研究教授し、現代社会において必要とされる知識を広く授け、もって仏教精神を修得して人々の幸福のために献身し、豊かな教養とすぐれた知見をもち、我国はもとより国際社会に貢献しうる有為の人材を育成することを目的とする。」と定めている。</p> <p>その精神は「帰依渴仰、断悪修善、速證無上大菩提處」で、全ての生きとし生けるものが、仏教に帰依し、深く信じ、悪を断ち、善を修め、速やかに仏の悟りを得て、その境地に達することのできる場所を意味する。</p> <p>学園訓では、聖徳太子の十七条憲法の第一条「和を以て貴しとなす」を教育の柱と定め、聖徳太子の撰述された三経義疏にある勝鬘夫人や維摩居士も範として、自己の知識や技能をみがき、利他の心をもち、人々に寄り添える人材の育成を使命としており、ディプロマ・ポリシーにも明記している。</p> <p>以上のことから、本学の使命・目的及び教育目的を具体的に明文化している。</p> |

|   |   |
|---|---|
| 1-1-②   | <p>四天王寺大学では、1-1-①で示したとおり、使命・目的等を簡潔に文章化し、本学の全学生、全教職員はもちろん、学外にも広く明示し、正しく理解されることに努めている。</p> <p>建学の精神及び教育理念に基づく本学の使命・目的は、「学生便覧」「ホームページ」「CAMPUS GUIDE」「IBU-NEWS」「履修要覧」「ウパーヤ」等によって内外へ分かりやすく周知している。</p>  |
| 1-1-③   | <p>本学は聖徳太子の敬田院設立の精神を建学の精神とし、人格の形成と専門的な知識や技能の修得を目的として、各学科・専攻を設置している。各学科・専攻の個性や特色については、「履修要覧」に①卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、②教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、③入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）を示し、“身につけるべき能力”を掲載している。ホームページでも同様に掲載して学内外に公開して容易に閲覧できるようにしている。</p>  |
| 1-1-④   | <p>教育研究上の目的は、「履修要覧」やホームページに明示し、必要に応じて各学科長に内容の確認を依頼して、実際の教育状況の適切性を検討する機会を確保している。また、3つのポリシーについても変動する社会情勢に対応させるため、外部評価者（企業等）による意見の聞き取り調査を行い、内容を検討し、適宜見直しを図っている。</p>  |
| <p>長所・特色《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの</p> |   |
| <p>1-1-①<br/>1-1-②<br/>1-1-③</p>              | <p><b>【学園訓とロゴマーク】</b></p> <p>本学は聖徳太子の事跡を継承し“国際的に開かれた「和」の精神を仏教教育によって育成する”という意味において、IBU（International Buddhist University）と称している。</p> <p>5つの学園訓はロゴマークの中で視覚的にも表現し、本学のアイデンティティを象徴するものとして広く活用している。</p> <p><b>【授戒会】</b></p> <p>学生は入学直後に、教職員は採用直後に、和宗総本山四天王寺本坊の五智光院において、建学の祖である聖徳太子の仏教精神に基づいた授戒会に参加している。授戒会は、本学の特徴である仏の教え(戒)に従うことを、誓う厳粛な行事であり、大学の使命・目的に基づく建学の精神を常に心にとどめ、より優れた人格の育成に励むという学生、教職員の意識の向上に大きく寄与している。</p> <p><b>【「和の精神Ⅰ」（瞑想）・「和の精神Ⅱ」（写経）】</b></p> <p>全学共通の基礎教育科目「和の精神Ⅰ」（瞑想）・「和の精神Ⅱ」（写経）は、1年次の必修科目として、聖徳太子の教えに対する尊敬の念を形として表現したもので、献灯に始まり、般若心経などの読経、瞑想、聞法（学習）や写経、聖歌斉唱などからなる。「和の精神Ⅰ」・「和の精神Ⅱ」では1年生及び全教員（一部事務職員）が大講堂に集まり行っている。</p> <p>これら授戒会、「和の精神Ⅰ」・「和の精神Ⅱ」等の実践行を通して、本学の使命・目的が学生や教職員へ周知徹底されるよう努めている。</p> <p>なお、令和2年度の「授戒会」および「和の精神Ⅰ」の実施については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、学内で会場を分散して実施する予定である。</p> |

### 3. 改善・向上方策（将来計画）

改善すべき点および向上方策（将来計画）について、学内体制や改善プロセスを示しながら、具体的に記載してください。

| 項目 No. | 改善・向上方策（将来計画）《箇条書き》   |
|--------|---|
| 1-1-①  | 本学の目的は、建学の精神・理念と共に本学のホームページ及び大学案内等において学内外へ公表しているが、今後も大学主催の各種イベントや講演会、あるいはホームページを一層充実させ、広く社会一般に周知していく。                             |
| 1-1-②  | 使命・目的及び教育目的を社会情勢の変化に対応させて学生に対し、どのように理解させるか、簡潔に文章化するのが良いか検討する。   |
| 1-1-③  | 基礎教育科目の「和の精神Ⅰ」・「和の精神Ⅱ」は、必修科目として、聖徳太子の教えを実践する形として読経、瞑想、写経、聖歌斉唱などを行っているが、今後はさらに和の精神を身につけた卒業生が実社会に於いて即戦力として期待・活躍できる人間形成につなげていく必要がある。 |
| 1-1-④  | 使命・目的及び教育目的の見直しをさらに進めるために教育改革推進本部会議での議論を活発に行い、外部評価会議を充実させていく。   |

## 1-2 使命・目的及び教育目的の反映

### 1. 自己判定

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記載してください。

| 項目 No. | <上段>           | 評価の視点   | 自己判定 |    |
|--------|----------------|---|------|----|
|        | <下段>           | 自己判定の留意点                                      | 個別   | 総合 |
| 1-2-①  | 役員、教職員の理解と支持   | ■使命・目的及び教育目的の策定等に役員、教職員が関与・参画しているか            | A    | A  |
|        | 学内外への周知        |   |      |    |
| 1-2-②  | 学内外への周知        | ■使命・目的及び教育目的をどのように学内外に周知しているか                 | A    |    |
|        | 中長期的な計画への反映    |   |      |    |
| 1-2-③  | 中長期的な計画への反映    | ■使命・目的及び教育目的を中長期的な計画に反映させているか                 | A    |    |
|        | 三つのポリシーへの反映    |   |      |    |
| 1-2-④  | 三つのポリシーへの反映    | ■使命・目的及び教育目的を三つのポリシーに反映させているか                 | A    |    |
|        | 教育研究組織の構成との整合性 |   |      |    |
| 1-2-⑤  | 教育研究組織の構成との整合性 | ■使命・目的及び教育目的を達成するために必要な学部・学科等の教育研究組織が整備されているか | A    |    |

### 2. 自己判定の理由

対象年度における取り組みを自己点検・評価し、「事実の説明」として第三者が理解できるように、根拠資料を用いて項目毎に具体的に記載してください。また、長所・特色も記載してください。

| 項目<br>No. | 事実の説明 及び 自己評価《箇条書き》  |
|-----------|--|
| 1-2-①     | <p>四天王寺大学の教育使命・目的及び三つのポリシーの実質化のため、平成 22 (2010) 年 4 月、教育開発推進本部を設置した。その後、令和元年 5 月に教育改革推進本部として組織を改編し、全学的な教育理念および教育目標を実現するために、全学的な教育施策の企画・開発、ならびに教育活動の継続的な改善を行い、本学の教育の充実と発展に寄与している。</p> <p>教育改革推進本部は、学長、副学長、副本部長、本部委員から成り、本部委員は、教学における決定機関である教育研究評議会のメンバーから学長が任命し、1 ヶ月に一回定期的に開催し、審議結果は常務理事へ報告している。</p> <p>常務理事は、四天王寺学園理事長と意思決定を共有して、理事を兼ねる学長はもとより、副学長および事務局長との方針調整を恒常化しており、役員、教職員が一体となった使命・目的及び教育目的の実行への責任体制をとっている。</p> <p>例年 3 月下旬及び 9 月初旬には、教職員全員参加による「合同研修会」が開催され、基本方針の共有を図っており、その具体化の基本的なプロセスとしては、教育改革推進本部における企画立案を起点とし、教育研究評議会で諮っている。その過程において適宜、大学運営会議、事務局連絡会、各種委員会等の審議を媒介させることにより、教職員の理解と支持を十分に得ている。</p> |
| 1-2-②     | <p>本学の教育の使命・目的は、聖徳太子の仏教精神に基づくものであり、本学のみならず学園の全体でも共有を図っている。学内外への周知は、ホームページはもとより、大学案内、学生便覧、こころえ手帳をはじめ各種広報媒体を活用して、周知している。</p>   |
| 1-2-③     | <p>聖徳太子の仏教精神の具現化に向け、平成 28(2016)年 4 月より 10 ヶ年の学園全体の将来ビジョンや本学並びに各学校の基本方針・目標・計画などを策定し、毎年、単年度事業計画により各校において PDCA サイクルによる業務改善を図り、学校法人四天王寺学園中長期計画を推進している。学部、学科においては、単年度の重点施策を策定し、自己点検・自己評価委員会、教育研究評議会で審議しており、使命・目的及び教育目的を中長期的な計画に反映させている。</p>   |
| 1-2-④     | <p>自己点検・自己評価の一環として、令和元(2019)年度より学外有識者や学生の意見を聴取する外部評価者会議を企業等向けと学生向けに分けて開催し、PDCA サイクルの再構築ならびに教育研究水準の向上を図った。</p> <p>また、本学の建学の精神となる「和の精神」を「学園訓」の実践により、全ての学生が身につけることができるよう、学生へ意識づけ、学修ポートフォリオを活用して学修成果の可視化を図り、使命・目的及び教育目的を三つのポリシーに反映させている。</p>   |
| 1-2-⑤     | <p>四天王寺大学学則に定める「聖徳太子が四天王寺を創建された精神に基づき、教育基本法および学校教育法に則り、深く専門の学術を研究教授し、現代社会において必要とされる知識を広く授け、もって仏教精神を修得して人々の幸福のために献身し、豊かな教養とすぐれた知見をもち、我国はもとより国際社会に貢献しうる有為の人材を育成する」という目的を達成するため、以下の学部・学科を設置しており、2019 年 4 月には、新たに看護学部を設置した。</p> <p>四天王寺大学 人文社会学部（日本学科・国際キャリア学科・社会学科・人間福祉学科）<br/>教育学部（教育学科）</p>   |

|       |  |
|-------|--|
|       | <p>経営学部（経営学科）<br/>看護学部（看護学科）</p> <p>また、附属施設として、図書館、エクステンションセンター、仏教文化研究所、保健センターがあり、使命・目的及び教育目的を達成するために必要な教育研究組織を整備している。</p> |
|       | <p>長所・特色《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの</p>  |
| 1-2-⑤ | <p>令和 2(2020)年 4 月には、看護学部を基礎として看護学研究科看護学専攻博士前期・後期課程を開設されるため、着実に整備・運営を行っていく。</p>  |

### 3. 改善・向上方策（将来計画）

改善すべき点および向上方策（将来計画）について、学内体制や改善プロセスを示しながら、具体的に記載してください。

| 項目 No. | 改善・向上方策（将来計画）《箇条書き》  |
|--------|--|
| 1-2-①  | <p>平成 30 年度に引き続き、令和元年度も合同研修会を開催し、常務理事、学長の役員から教職員全員に対し、基本方針の共有を図った。また、年間を通じて教育改革推進本部会議も開催し、中長期計画の改定、三つのポリシーの策定など大学の運営に係る方針等について審議を行った。審議結果については、大学運営会議に提案し、学部教授会から意見を聞き、教育研究評議会の承認を得ている。理事会へは、事業報告や運営体制の強化等について提案し、大学運営に関しての承認を得ており、引き続き、使命・目的及び教育目的の策定等に役員、教職員が関与・参画するよう組織体制を強化していく。</p> |
| 1-2-②  | <p>「三つのポリシー」をホームページにおいて公表しており、今後も積極的に周知を図っていく。</p>   |
| 1-2-③  | <p>中長期計画については、社会変化への対応など時代の変化にも柔軟に対応できるよう計画（1 期・5 年）終了時に取組み結果の集約と評価を実施し、次期サイクルの改善を図っていく。</p>   |
| 1-2-④  | <p>令和元年 5 月に、本学の教育活動の成果について、本学とかかわりのある企業、高等学校、地方自治体等の外部関係者と本学の学生から意見を聴取する外部評価者会議を実施したが、さらに充実を図り、使命・目的及び教育目的を三つのポリシーに反映させていく。</p>   |
| 1-2-⑤  | <p>今後も本学の使命・目的及び教育目的を達成するよう、教育研究評議会での意思決定と学部教授会及び各種委員会等での積極的な議論の関係を重視しながら、組織体制を整えていく。</p>  |

## II. 基準 1 の自己評価＜総評＞

教育目的は学則に定められており、教育理念は履修要覧に掲載するとともに、ホームページ上で公開している。全教職員が、教育・研究上の目的を理解するとともに、中長期計画及び三つのポリシーへ反映している。教育研究組織についても、令和元年度より教育研究評議会において意思決定が図られ、学部、学科、事務局のそれぞれが役割を担い、大学運営会議、学部教授会をはじめ、教育改革推進本部会議、各種委員会が構成され、連携を図っている。

以上のことから、「基準 1. 使命・目的等」は基準を満たしている。

## 令和 2 年度（対象：令和元年）自己点検・評価シート

|      |    |
|------|----|
| 基準 2 | 学生 |
|------|----|

## I. 自己点検・評価

## 2-1 学生の受入れ

## 1. 自己判定

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の 4 段階で記載してください。

| 項目 No. | <上段> 評価の視点  | 自己判定 |    |
|--------|---|------|----|
|        | <下段> 自己判定の留意点   | 個別   | 総合 |
| 2-1-①  | 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知                                     | A    | A  |
|        | ■教育目的を踏まえ、アドミッション・ポリシーを定め、周知しているか。                              |      |    |
| 2-1-②  | アドミッション・ポリシーに沿った入学者受入れの実施とその検証                                  | A    |    |
|        | ■アドミッション・ポリシーに沿って、入学者選抜などを公正かつ妥当な方法により、適切な体制のもとに運用しその検証を行っているか。 |      |    |
| 2-1-③  | 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持  | A    |    |
|        | ■教育を行う環境の確保のため、入学定員及び収容定員に沿って在籍学生を適切に確保しているか。                   |      |    |

## 2. 自己判定の理由

対象年度における取り組みを自己点検・評価し、「事実の説明」として第三者が理解できるように、根拠資料を用いて項目毎に具体的に記載してください。また、長所・特色も記載してください。

| 項目 No. | 事実の説明 及び 自己評価《箇条書き》   |
|--------|---|
| 2-1-①  | <p>本学では、卒業認定・学位授与の方針に基づいて、学部・学科（専攻・コース）毎にアドミッション・ポリシーを明確に定め、大学ホームページ、入試ガイド、入学試験要項等に記載し、受験生並びに保護者、高校教員等への周知を図っている。</p>   |
| 2-1-②  | <p><b>人文社会学部</b></p> <p>本学では、アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜を行い、公正かつ妥当な方法により、適切な体制のもとに運用している。選抜基準などが異なる多様な入学試験を実施し、本学が求める学生像に合致する入学者を選抜している。</p> <p>令和 2（2020）年度入試の募集人員の割合について、入学定員 420 人に対して推薦入学試験を 44%、一般入学試験を 56%として選抜した。</p> <p>1. 指定校制推薦入学試験</p> <p>出身学校の調査書、推薦書、面接により入学意欲を確認し、可否を判定した。また、出身学校における学習状況を評価する為、評定平均値 4.0 以上の者を成績優秀者特待奨学金の給付対象とした。</p> <p>2. 同窓入学試験</p> <p>四天王寺大学または四天王寺大学短期大学部の卒業生あるいは在学生の 3 親等以内の者を対象とし、出身学校の調査書、推薦書、志望理由書、面談により多面的・総合的に可否を</p> |

判定した。合格者全員を同窓入学試験奨学金の給付対象とした。

### 3. 公募制推薦入学試験

出身学校の調査書、推薦書、基礎学力検査により、総合的に合否を判定した。

- (1) 前期日程：試験日を2日間設定。試験会場は本学、名張、京都、神戸、和歌山、岡山、福岡、那覇会場の8会場を設定して実施した。調査書重視方式の2科目型では、基礎学力検査(国語、英語、数学から2科目)の点数と調査書(評定平均値12倍)の点数を合計して合否を判定した。調査書重視方式の1科目型では、基礎学力検査(国語、英語から1科目を選択)の点数と調査書(評定平均値6倍)の点数を合計して合否を判定した。科目重視方式の2科目型では、基礎学力検査(国語、英語、数学から2科目)の点数(素点1.2倍)と調査書(評定平均値4倍)の点数を合計して合否を判定した。科目重視方式の1科目型では、基礎学力検査(国語、英語から1科目を選択)の点数(素点1.2倍)と調査書(評定平均値2倍)の点数を合計して合否を判定した。
- (2) 後期日程：試験日は1日。本学を試験会場として実施した。2科目型では、基礎学力検査(国語、英語、数学から2科目)の点数と調査書(評定平均値4倍)の点数を合計して合否を判定した。1科目型では、基礎学力検査(国語、英語から1科目を選択)の点数と調査書(評定平均値2倍)の点数を合計して合否を判定した。

### 4. 特別活動推薦入学試験

出身学校の調査書、推薦書、エントリーシート、特別活動、資格・検定、グループディスカッションにより、今までの活動や努力・コミュニケーション能力等を確認し、総合的に合否を判定した。

### 5. 一般入学試験

一般入学試験の試験科目「英語」については、英語外部試験の利用を可能とし、英語外部試験のスコアを本学の基準に従い、本学の試験得点として換算し判定した。

- (1) 前期日程：試験日を2日間設定。試験会場は本学、名古屋、京都、福知山、大阪北、神戸、奈良、和歌山、高松、広島、福岡、那覇会場の12会場を設定して実施した。3科目型では、国語、英語に加えて選択科目(日本史、世界史、数学、生物、化学から1科目を選択)の点数を合計して合否を判定した。2科目型では、国語、英語、日本史、世界史、数学、生物、化学から2科目を選択(国語または英語は必須科目)して合計点数で合否を判定した。また、合格者上位の者を入学試験成績優秀者奨学金または入学試験成績優秀者遠隔地奨学金の給付対象とした。
- (2) 中期日程：試験日は1日。本学を試験会場として実施した。試験科目は、国語と選択科目(英語、日本史、数学、生物、化学から1科目を選択)の点数を合計して合否を判定した。
- (3) 後期日程：試験日は1日。試験会場は本学、大阪北、和歌山、岡山の4会場を設定して実施した。試験科目は、国語と選択科目(英語、小論文から1科目を選択)の点数を合計して合否を判定した。なお、国語、英語には一部に記述式問題を導入している。

### 6. 大学入試センター試験利用入学試験

- (1) I期：令和2(2020)年度または平成31(2019)年度大学入試センター試験の試験教科、科目のうち本学が指定する教科・科目の中で得点の高い3科目で合否を判定した。
- (2) II期：令和2(2020)年度または平成31(2019)年度大学入試センター試験の試験教科、科目のうち本学が指定する教科・科目の中で得点の高い2科目で合否を判定した。

### 7. アドミッションオフィス(AO)入学試験

- (1) オープンキャンパス参加型：本学のオープンキャンパスで実施するセミナーに参加

し、学部・学科の特色を理解した上でエントリーしてもらおう。セミナーの理解度を小レポートで確認し、面談でアドミッション・ポリシーに基づき、学部・学科にふさわしい能力・適性等を多面的・総合的に判定した。

(2) 自由応募型：志望理由書、面談でアドミッション・ポリシーに基づき、学部・学科にふさわしい能力・適性等を多面的・総合的に判定した。

#### 8. 社会人入学試験

出願資格は、当該入学試験実施年度の4月1日現在において、3年以上の社会経験を有し、満22歳以上である者とした。小論文、書類審査、面接で総合的に合否を判定することとし、定員は若干名としたが、受験生はいなかった。

#### 9. 外国人留学生入学試験

日本語基礎能力検査、書類審査、面接において、高等学校卒業程度の基礎学力及び大学教育を受ける為に十分な日本語能力を有しているか総合的に判定することとし、定員は若干名として実施した。

#### 10. 帰国生徒入学試験

外国に設置された学校で、日本の学校教育法に準拠した学校に在学した者に対して、日本語基礎能力検査、英語、書類審査、面接において、高等学校卒業程度の基礎学力及び大学教育を受ける為に十分な日本語能力を有しているか総合的に判定することとし、定員は若干名としたが、受験生はいなかった。

#### 教育学部

本学では、アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜を行い、公正かつ妥当な方法により、適切な体制のもとに運用している。選抜基準などが異なる多様な入学試験を実施し、本学が求める学生像に合致する入学者を選抜している。

令和2(2020)年度入試の募集人員の割合について、入学定員240人に対して推薦入学試験を50%、一般入学試験を50%として選抜した。

#### 1. 指定校制推薦入学試験

出身学校の調査書、推薦書、面接により入学意欲を確認し、合否を判定した。また、出身学校における学習状況を評価する為、評定平均値4.0以上の者を成績優秀者特待奨学金の給付対象とした。

#### 2. 同窓入学試験

四天王寺大学または四天王寺大学短期大学部の卒業生あるいは在学生の3親等以内の者を対象とし、出身学校の調査書、推薦書、志望理由書、面談により多面的・総合的に合否を判定した。合格者全員を同窓入学試験奨学金の給付対象とした。

#### 3. 公募制推薦入学試験

出身学校の調査書、推薦書、基礎学力検査により、総合的に合否を判定した。

(1)前期日程：試験日を2日間設定。試験会場は本学、名張、京都、神戸、和歌山、岡山、福岡、那覇会場の8会場を設定して実施した。調査書重視方式の2科目型では、基礎学力検査(国語、英語、数学から2科目)の点数と調査書(評定平均値12倍)の点数を合計して合否を判定した。調査書重視方式の1科目型では、基礎学力検査(国語、英語から1科目を選択)の点数と調査書(評定平均値6倍)の点数を合計して合否を判定した。科目重視方式の2科目型では、基礎学力検査(国語、英語、数学から2科目)の点数(素点1.2倍)と調査書(評定平均値4倍)の点数を合計して合否を判定した。科目重視方式の1科目型では、基礎学力検査(国語、英語から1科目を選択)の点数(素点1.2倍)と調査書(評定平均値2倍)の点数を合計して合否を判定した。

(2)後期日程：試験日は1日。本学を試験会場として実施した。2科目型では、基礎学力検査(国語、英語、数学から2科目)の点数と調査書(評定平均値4倍)の点数を合計して合否を



判定した。1科目型では、基礎学力検査(国語、英語から1科目を選択)の点数と調査書(評定平均値2倍)の点数を合計して合否を判定した。

#### 4. 特別活動推薦入学試験

出身学校の調査書、推薦書、エントリーシート、特別活動、資格・検定、グループディスカッションにより、今までの活動や努力・コミュニケーション能力等を確認し、総合的に合否を判定した。

#### 5. 一般入学試験

一般入学試験の試験科目「英語」については、英語外部試験の利用を可能とし、英語外部試験のスコアを本学の基準に従い、本学の試験得点として換算し判定した。

(1) 前期日程：試験日を2日間設定。試験会場は本学、名古屋、京都、福知山、大阪北、神戸、奈良、和歌山、高松、広島、福岡、那覇会場の12会場を設定して実施した。3科目型では、国語、英語に加えて選択科目(日本史、世界史、数学、生物、化学から1科目を選択)の点数を合計して合否を判定した。また、高得点科目重視方式では高得点科目の得点を2倍に換算して合否を判定した。2科目型では、国語、英語、日本史、世界史、数学、生物、化学から2科目を選択(国語または英語は必須科目)して合計点数で合否を判定した。また、合格者上位の者を入学試験成績優秀者奨学金または入学試験成績優秀者遠隔地奨学金の給付対象とした。

(2) 中期日程：試験日は1日。本学を試験会場として実施した。試験科目は、国語と選択科目(英語、日本史、数学、生物、化学から1科目を選択)の点数を合計して合否を判定した。

(3) 後期日程：試験日は1日。試験会場は本学、大阪北、和歌山、岡山の4会場を設定して実施した。試験科目は、国語と選択科目(英語、小論文から1科目を選択)の点数を合計して合否を判定した。なお、国語、英語には一部に記述式問題を導入している。

#### 6. 大学入試センター試験利用入学試験

(1) I期：令和2(2020)年度または平成31(2019)年度大学入試センター試験の試験教科、科目のうち本学が指定する教科・科目の中で得点の高い3科目で合否を判定した。

(2) II期：令和2(2020)年度または平成31(2019)年度大学入試センター試験の試験教科、科目のうち本学が指定する教科・科目の中で得点の高い2科目で合否を判定した。

#### 7. アドミッションオフィス(AO)入学試験

(1) オープンキャンパス参加型：本学のオープンキャンパスで実施するセミナーに参加し、学部・学科の特色を理解した上でエントリーしてもらい、セミナーの理解度を小論文で確認し、面談でアドミッション・ポリシーに基づき、学部・学科にふさわしい能力・適性等を多面的・総合的に判定した。

(2) 自由応募型：志望理由書、面談でアドミッション・ポリシーに基づき、学部・学科にふさわしい能力・適性等を多面的・総合的に判定した。

#### 8. 社会人入学試験

出願資格は、当該入学試験実施年度の4月1日現在において、3年以上の社会経験を有し、満22歳以上である者とした。小論文、書類審査、面接で総合的に合否を判定することとし、定員は若干名としたが、受験生はいなかった。

#### 9. 外国人留学生入学試験

日本語基礎能力検査、書類審査、面接において、高等学校卒業程度の基礎学力及び大学教育を受ける為に十分な日本語能力を有しているか総合的に判定することとし、定員は若干名としたが、受験生はいなかった。

## 10. 帰国生徒入学試験

外国に設置された学校で、日本の学校教育法に準拠した学校に在学した者に対して、日本語基礎能力検査、英語、書類審査、面接において、高等学校卒業程度の基礎学力及び大学教育を受ける為に十分な日本語能力を有しているか総合的に判定することとし、定員は若干名としたが、受験生はいなかった。

**経営学部**

本学では、アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜を行い、公正かつ妥当な方法により、適切な体制のもとに運用している。選抜基準などが異なる多様な入学試験を実施し、本学が求める学生像に合致する入学者を選抜している。

令和 2 (2020) 年度入試の募集人員の割合について、入学定員 160 人に対して推薦入学試験を 49%、一般入学試験を 51%として選抜した。

## 1. 指定校制推薦入学試験

出身学校の調査書、推薦書、面接により入学意欲を確認し、可否を判定した。また、出身学校における学習状況を評価する為、評定平均値 4.0 以上の者を成績優秀者特待奨学金の給付対象とした。

## 2. 同窓入学試験

四天王寺大学または四天王寺大学短期大学部の卒業生あるいは在学生の 3 親等以内の者を対象とし、出身学校の調査書、推薦書、志望理由書、面談により多面的・総合的に可否を判定した。合格者全員を同窓入学試験奨学金の給付対象とした。

## 3. 公募制推薦入学試験

出身学校の調査書、推薦書、基礎学力検査により、総合的に可否を判定した。

(1) 前期日程：試験日を 2 日間設定。試験会場は本学、名張、京都、神戸、和歌山、岡山、福岡、那覇会場の 8 会場を設定して実施した。調査書重視方式の 2 科目型では、基礎学力検査(国語、英語、数学から 2 科目)の点数と調査書(評定平均値 12 倍)の点数を合計して可否を判定した。調査書重視方式の 1 科目型では、基礎学力検査(国語、英語から 1 科目を選択)の点数と調査書(評定平均値 6 倍)の点数を合計して可否を判定した。科目重視方式の 2 科目型では、基礎学力検査(国語、英語、数学から 2 科目)の点数(素点 1.2 倍)と調査書(評定平均値 4 倍)の点数を合計して可否を判定した。科目重視方式の 1 科目型では、基礎学力検査(国語、英語から 1 科目を選択)の点数(素点 1.2 倍)と調査書(評定平均値 2 倍)の点数を合計して可否を判定した。

(2) 後期日程：試験日は 1 日。本学を試験会場として実施した。2 科目型では、基礎学力検査

(国語、英語、数学から 2 科目)の点数と調査書(評定平均値 4 倍)の点数を合計して可否を判定した。1 科目型では、基礎学力検査(国語、英語から 1 科目を選択)の点数と調査書(評定平均値 2 倍)の点数を合計して可否を判定した。

## 4. 特別活動推薦入学試験

出身学校の調査書、推薦書、エントリーシート、特別活動、資格・検定、グループディスカッションにより、今までの活動や努力・コミュニケーション能力等を確認し、総合的に可否を判定した。

## 5. 一般入学試験

一般入学試験の試験科目「英語」については、英語外部試験の利用を可能とし、英語外部試験のスコアを本学の基準に従い、本学の試験得点として換算し判定した。

(1) 前期日程：試験日を 2 日間設定。試験会場は本学、名古屋、京都、福知山、大阪北、神戸、奈良、和歌山、高松、広島、福岡、那覇会場の 12 会場を設定して実施した。3 科目型では、国語、英語に加えて選択科目(日本史、世界史、数学、生物、化学から 1 科目

を選択)の点数を合計して合否を判定した。2科目型では、国語、英語、日本史、世界史、数学、生物、化学から2科目を選択(国語または英語は必須科目)して合計点数で合否を判定した。また、合格者上位の者を入学試験成績優秀者奨学金または入学試験成績優秀者遠隔地奨学金の給付対象とした。同様に合格者上位の者を経営学部総合奨学金の給付対象とした。

(2) 中期日程：試験日は1日。本学を試験会場として実施した。試験科目は、国語と選択科目(英語、日本史、数学、生物、化学から1科目を選択)の点数を合計して合否を判定した。

(3) 後期日程：試験日は1日。試験会場は本学、大阪北、和歌山、岡山の4会場を設定して実施した。試験科目は、国語と選択科目(英語、小論文から1科目を選択)の点数を合計して合否を判定した。なお、国語、英語には一部に記述式問題を導入している。

#### 6. 大学入試センター試験利用入学試験

(1) I期：令和2(2020)年度または平成31(2019)年度大学入試センター試験の試験教科、科目のうち本学が指定する教科・科目の中で得点の高い3科目で合否を判定した。

(2) II期：令和2(2020)年度または平成31(2019)年度大学入試センター試験の試験教科、科目のうち本学が指定する教科・科目の中で得点の高い2科目で合否を判定した。

#### 7. アドミッションオフィス(AO)入学試験

(1) オープンキャンパス参加型：本学のオープンキャンパスで実施するセミナーに参加し、学部・学科の特色を理解した上でエントリーしてもらう。セミナーの理解度を小レポートで確認し、面談でアドミッション・ポリシーに基づき、学部・学科にふさわしい能力・適性等を多面的・総合的に判定した。

(2) 自由応募型：志望理由書、面談でアドミッション・ポリシーに基づき、学部・学科にふさわしい能力・適性等を多面的・総合的に判定した。

#### 8. 社会人入学試験

出願資格は、当該入学試験実施年度の4月1日現在において、3年以上の社会経験を有し、満22歳以上である者とした。小論文、書類審査、面接で総合的に合否を判定することとし、定員は若干名としたが、受験生はいなかった。

#### 9. 外国人留学生入学試験

日本語基礎能力検査、書類審査、面接において、高等学校卒業程度の基礎学力及び大学教育を受ける為に十分な日本語能力を有しているか総合的に判定することとし、定員は若干名として実施した。

#### 10. 帰国生徒入学試験

外国に設置された学校で、日本の学校教育法に準拠した学校に在学した者に対して、日本語基礎能力検査、英語、書類審査、面接において、高等学校卒業程度の基礎学力及び大学教育を受ける為に十分な日本語能力を有しているか総合的に判定することとし、定員は若干名としたが、受験生はいなかった。

#### 看護学部

本学では、アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜を行い、公正かつ妥当な方法により、適切な体制のもとに運用している。選抜基準などが異なる多様な入学試験を実施し、本学が求める学生像に合致する入学者を選抜している。

令和2(2020)年度入試の募集人員の割合について、入学定員80人に対して推薦入学試験を41%、一般入学試験を59%として選抜した。

#### 1. 指定校制推薦入学試験

出身学校の調査書、推薦書、面接により入学意欲を確認し、可否を判定した。また、出身学校における学習状況を評価する為、評定平均値 4.0 以上の者を成績優秀者特待奨学金の給付対象とした。

## 2. 同窓入学試験

四天王寺大学または四天王寺大学短期大学部の卒業生あるいは在学生の 3 親等以内の者を対象とし、出身学校の調査書、推薦書、志望理由書、面談により多面的・総合的に可否を判定した。合格者全員を同窓入学試験奨学金の給付対象とした。

## 3. 公募制推薦入学試験

- (1) 前期日程：試験日を 2 日間設定。試験会場は本学、名張、京都、神戸、和歌山、岡山、福岡、那覇会場の 8 会場を設定して実施した。調査書重視方式では、基礎学力検査(必須科目の英語に加え、国語、数学から 1 科目を選択)の点数と調査書(評定平均値 12 倍)の点数を合計して可否を判定した。科目重視方式では、基礎学力検査(必須科目の英語に加え、国語、数学から 1 科目を選択)の点数(素点 1.2 倍)と調査書(評定平均値 4 倍)の点数を合計して可否を判定した。
- (2) 後期日程：試験日は 1 日。本学を試験会場として実施した。基礎学力検査(必須科目の英語に加え、国語、数学から 1 科目を選択)の点数と調査書(評定平均値 4 倍)の点数を合計して可否を判定した。

## 4. 一般入学試験

一般入学試験の試験科目「英語」については、英語外部試験の利用を可能とし、英語外部試験のスコアを本学の基準に従い、本学の試験得点として換算し判定した。

- (1) 前期日程：試験日を 2 日間設定。試験会場は本学、名古屋、京都、福知山、大阪北、神戸、奈良、和歌山、高松、広島、福岡、那覇会場の 12 会場を設定して実施した。3 科目型では、国語、英語に加えて選択科目(数学、生物、化学から 1 科目を選択)の点数を合計して可否を判定した。2 科目型では、国語、英語、数学、生物、化学から 2 科目を選択(国語または英語は必須科目)して合計点数で可否を判定した。また、合格者上位の者を入学試験成績優秀者奨学金または入学試験成績優秀者遠隔地奨学金の給付対象とした。同様に合格者上位の者を看護学部特別奨学金の給付対象とした。
- (2) 中期日程：試験日は 1 日。本学を試験会場として実施した。試験科目は、国語と選択科目(英語、数学、生物、化学から 1 科目を選択)の点数を合計して可否を判定した。
- (3) 後期日程：試験日は 1 日。試験会場は本学、大阪北、和歌山、岡山の 4 会場を設定して実施した。試験科目は、国語と英語の点数を合計して可否を判定した。なお、国語、英語には一部に記述式問題を導入している。

## 5. 大学入試センター試験利用入学試験

I 期：令和 2 (2020) 年度または平成 31 (2019) 年度大学入試センター試験の試験教科、科目のうち本学が指定する教科・科目の中で得点の高い 3 科目で可否を判定した。

## 6. 社会人入学試験

出願資格は、当該入学試験実施年度の 4 月 1 日現在において、3 年以上の社会経験を有し、満 22 歳以上である者とした。小論文、書類審査、面接で総合的に可否を判定することとし、定員は若干名として実施した。

学部・学科別入学定員、志願者入学者の推移の状況は次の表に示す。学部ごとに入学定員・入学定員超過率を把握し、入試判定協議会、入試判定委員会において適切な入学者数・在籍学生数の管理を行っている。

過去5年間の入学定員に対する平均比率については、人文社会学部 1.13、教育学部 1.06、経営学部 1.20、看護学部 1.05、短期大学部 1.02 であり、入学定員に沿った適切な受入れ数を維持している。

学部、学科別の志願者数、合格者数、入学者数の推移(過去5年間)

<大学>

2-1-③

| 学部名    | 学科名      | 項目          | 2016  | 2017  | 2018  | 2019  | 2020 | 入学定員<br>に対する<br>平均比率 |
|--------|----------|-------------|-------|-------|-------|-------|------|----------------------|
| 人文社会学部 | 日本学科     | 志願者数        | 436   | 448   | 486   | 690   | 740  | 119%                 |
|        |          | 合格者数        | 281   | 240   | 176   | 164   | 179  |                      |
|        |          | 入学者数        | 122   | 143   | 119   | 102   | 107  |                      |
|        |          | 入学定員        | 100   | 100   | 100   | 100   | 100  |                      |
|        |          | 入学定員<br>充足率 | 122%  | 143%  | 119%  | 102%  | 107% |                      |
|        | 国際キャリア学科 | 志願者数        | 325   | 298   | 375   | 504   | 498  | 119%                 |
|        |          | 合格者数        | 255   | 249   | 215   | 173   | 193  |                      |
|        |          | 入学者数        | 120   | 113   | 106   | 92    | 107  |                      |
|        |          | 入学定員        | 90    | 90    | 90    | 90    | 90   |                      |
|        |          | 入学定員<br>充足率 | 133%  | 125%  | 117%  | 102%  | 119% |                      |
|        | 社会学部     | 志願者数        | 459   | 522   | 563   | 1,019 | 919  | 112%                 |
|        |          | 合格者数        | 426   | 409   | 305   | 238   | 264  |                      |
|        |          | 入学者数        | 162   | 208   | 176   | 183   | 170  |                      |
|        |          | 入学定員        | 160   | 160   | 160   | 160   | 160  |                      |
|        |          | 入学定員<br>充足率 | 101%  | 130%  | 110%  | 114%  | 106% |                      |
|        | 人間福祉学科   | 志願者数        | 136   | 142   | 161   | 315   | 296  | 100%                 |
|        |          | 合格者数        | 125   | 136   | 138   | 116   | 150  |                      |
|        |          | 入学者数        | 45    | 78    | 80    | 71    | 78   |                      |
|        |          | 入学定員        | 70    | 70    | 70    | 70    | 70   |                      |
|        |          | 入学定員<br>充足率 | 64%   | 111%  | 114%  | 101%  | 111% |                      |
| 学部合計   | 志願者数     | 1,356       | 1,410 | 1,585 | 2,528 | 2,453 | 113% |                      |
|        | 合格者数     | 1,087       | 1,034 | 834   | 691   | 786   |      |                      |
|        | 入学者数     | 449         | 542   | 481   | 448   | 462   |      |                      |
|        | 入学定員     | 420         | 420   | 420   | 420   | 420   |      |                      |

|      |      |             |       |       |       |       |       |                      |
|------|------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|----------------------|
|      |      | 入学定員<br>充足率 | 106%  | 129%  | 114%  | 106%  | 110%  |                      |
| 学部名  | 学科名  | 項目          | 2016  | 2017  | 2018  | 2019  | 2020  | 入学定員<br>に対する<br>平均比率 |
| 教育学部 | 教育学科 | 志願者数        | 2,474 | 2,353 | 1,887 | 2,584 | 2,893 | 106%                 |
|      |      | 合格者数        | 499   | 421   | 373   | 581   | 497   |                      |
|      |      | 入学者数        | 274   | 261   | 228   | 263   | 247   |                      |
|      |      | 入学定員        | 240   | 240   | 240   | 240   | 240   |                      |
|      |      | 入学定員<br>充足率 | 114%  | 108%  | 95%   | 109%  | 103%  |                      |
| 学部名  | 学科名  | 項目          | 2016  | 2017  | 2018  | 2019  | 2020  | 入学定員<br>に対する<br>平均比率 |
| 経営学部 | 経営学科 | 志願者数        | 594   | 737   | 856   | 1,113 | 1,075 | 120%                 |
|      |      | 合格者数        | 460   | 533   | 342   | 209   | 346   |                      |
|      |      | 入学者数        | 186   | 206   | 193   | 145   | 230   |                      |
|      |      | 入学定員        | 160   | 160   | 160   | 160   | 160   |                      |
|      |      | 入学定員<br>充足率 | 116%  | 128%  | 120%  | 90%   | 144%  |                      |
| 学部名  | 学科名  | 項目          | 2016  | 2017  | 2018  | 2019  | 2020  | 入学定員<br>に対する<br>平均比率 |
| 看護学部 | 看護学科 | 志願者数        | -     | -     | -     | 1,031 | 1,138 | 105%                 |
|      |      | 合格者数        | -     | -     | -     | 140   | 181   |                      |
|      |      | 入学者数        | -     | -     | -     | 84    | 84    |                      |
|      |      | 入学定員        | -     | -     | -     | 80    | 80    |                      |
|      |      | 入学定員<br>充足率 | -     | -     | -     | 105%  | 105%  |                      |

| <大学院>    |         |      |             |      |      |      |      |      |                      |
|----------|---------|------|-------------|------|------|------|------|------|----------------------|
| 研究科名     | 専攻名     | 課程   | 項目          | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 入学定員<br>に対する<br>平均比率 |
| 人文社会学研究科 | 人間福祉学専攻 | 前期課程 | 志願者数        | 2    | 4    | 2    | 1    | 1    | 20%                  |
|          |         |      | 合格者数        | 2    | 4    | 2    | 1    | 1    |                      |
|          |         |      | 入学者数        | 2    | 4    | 2    | 1    | 1    |                      |
|          |         |      | 入学定員        | 10   | 10   | 10   | 10   | 10   |                      |
|          |         |      | 入学定員<br>充足率 | 20%  | 40%  | 20%  | 10%  | 10%  |                      |
|          |         | 後期課程 | 志願者数        | 1    | 1    | 0    | 5    | 4    | 73%                  |
|          |         |      | 合格者数        | 1    | 1    | 0    | 5    | 4    |                      |
|          |         |      | 入学者数        | 1    | 1    | 0    | 5    | 4    |                      |
|          |         |      | 入学定員        | 3    | 3    | 3    | 3    | 3    |                      |
|          |         |      | 入学定員<br>充足率 | 33%  | 33%  | 0%   | 166% | 133% |                      |
| 看護学研究科   | 看護学専攻   | 前期課程 | 志願者数        | —    | —    | —    | —    | 5    | 67%                  |
|          |         |      | 合格者数        | —    | —    | —    | —    | 4    |                      |
|          |         |      | 入学者数        | —    | —    | —    | —    | 4    |                      |
|          |         |      | 入学定員        | —    | —    | —    | —    | 6    |                      |
|          |         |      | 入学定員<br>充足率 | —    | —    | —    | —    | 67%  |                      |
|          |         | 後期課程 | 志願者数        | —    | —    | —    | —    | 5    | 100%                 |
|          |         |      | 合格者数        | —    | —    | —    | —    | 3    |                      |
|          |         |      | 入学者数        | —    | —    | —    | —    | 3    |                      |
|          |         |      | 入学定員        | —    | —    | —    | —    | 3    |                      |
|          |         |      | 入学定員<br>充足率 | —    | —    | —    | —    | 100% |                      |

### 3. 改善・向上方策（将来計画）

改善すべき点および向上方策（将来計画）について、学内体制や改善プロセスを示しながら、具体的に記載してください。

| 項目 No. | 改善・向上方策（将来計画）《箇条書き》  |
|--------|--|
| 2-1-①  | 令和3（2021）年度入試においては、卒業認定・学位授与の方針および教育課程編成・実施の方針を踏まえ、求める能力やその評価方法を学力の3要素等と関連付けて、多面的・総合的に評価を行うため、アドミッション・ポリシーを公表し、それに基づく入試を実施するとともに、文部科学省が推奨する選抜方法として、グループディスカッションや小論文を実施する。                      |
| 2-1-②  | 令和3（2021）年度入試においては、近隣の高等学校との連携を重視した「学校推薦型選抜高大連携型」を実施し、公正かつ妥当な方法により、適切な体制のもとに運用する。また、各学部において、継続した入学後の検証を行う。   |
| 2-1-③  | 入試判定協議会や入試判定委員会だけでなく、入試・広報委員会においても、随時、入学予想者数を情報共有し、各学部と連携しながら入学定員に沿った適切な入学者数の維持を図る。また、新たに導入する学校推薦型選抜高大連携型により、安定的な専願制入試による入学者の確保を行うとともに、令和2年度の指定校制推薦入試への出願数増加に伴う出願資格の見直しを行い、入試区分ごとの入学者数の適正化を図る。 |

### 4. 根拠資料

エビデンスの例示を参考に、規程、冊子、ホームページ（URL）など、根拠資料を記載してください。

| 項目 No. | 根拠記号 | 根拠資料の名称  |
|--------|------|--|
| 2-1-①  |      | 四天王寺大学学則   |
|        |      | 入学試験要項 2020  |
|        |      | 入試ガイド 2020   |
| 2-1-②  |      | 教育研究上の目的・3つのポリシー等<br>( <a href="http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/policy.html">http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/policy.html</a> ) |
|        |      | 入学試験要項 2020  |
|        |      | 入試ガイド 2020   |
| 2-1-③  |      | 教育研究上の目的・3つのポリシー等<br>( <a href="http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/policy.html">http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/policy.html</a> ) |
|        |      | 入学試験要項 2020  |
|        |      | 入試ガイド 2020   |

## 2-2 学修支援

### 1. 自己判定

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記載してください。



| 項目<br>No. | <上段> 評価の視点  | 自己判定 |    |
|-----------|---|------|----|
|           | <下段> 自己判定の留意点   | 個別   | 総合 |
| 2-2-①     | 教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備   | A    | A  |
|           | ■教職協働による学生への学修支援に関する方針・計画・実施体制を適切に整備・運営しているか。   |      |    |
| 2-2-②     | TA (Teaching Assistant) 等の活用をはじめとする学修支援の充実  | A    | A  |
|           | ■障がいのある学生への配慮を行っているか。<br>■オフィスアワー制度を全学的に実施しているか。<br>■教員の教育活動を支援するために、TA などを適切に活用しているか。<br>■中途退学、休学及び留年への対応策を行っているか。 |      |    |

## 2. 自己判定の理由

対象年度における取り組みを自己点検・評価し、「事実の説明」として第三者が理解できるように、根拠資料を用いて項目毎に具体的に記載してください。また、長所・特色も記載してください。

| 項目<br>No.           | 事実の説明 及び 自己評価《箇条書き》   |       |                     |
|---------------------|---|-------|---------------------|
| 2-2-①               | <p>「和の精神」を身につけ、『実社会で活躍できる人間形成』を教育目標として掲げている本学では、その取り組みの一環として木曜2限に卒業要件の必修科目として「和の精神Ⅰ」・「和の精神Ⅱ」を開講している。授業運営・学生指導は教員、授業運営のサポートは職員が主に担当しており、「和の精神Ⅰ」（夏学期開講）は「瞑想」、「和の精神Ⅱ」（冬学期開講）は「写経」を行い、入堂時にも服装チェックを行うなど厳しく学生を指導している。</p> <p>1. 「和の精神Ⅰ」・「和の精神Ⅱ」の取り組み</p> <p>「和の精神Ⅰ」・「和の精神Ⅱ」は、出席状況を教員・職員で協働して管理することが退学防止対策の1つでもあることから、3回連続欠席した学生の保護者宛に、教務課より注意喚起の書面を送り、同時に担任教員より本人または保護者へ連絡して指導を行っている。履修全般に関する指導を担任教員及び教務課で行っている。</p> <p>2. 学生への履修指導等</p> <p>履修全般に関する指導を担任教員及び教務課で行っている。また、履修登録をしていない学生には教務課より連絡をするが、同時に担任教員とも情報共有を行い最終の履修登録期間後に担任より該当学生へ連絡を行っている。履修に関しての重要な事項については「教務委員会」でも検討・決定して各教員へ協力要請している。</p> <p>&lt;教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備&gt;</p> <p>本学では各種委員会は下表のとおりであり、これらの委員会には事務職員も運営に参画している。なお、これらの委員会が中心になり学修支援及び授業支援を企画、管理、運営しており、構成員である事務職員から担当課に報告がなされ、実務作業が教員と職員の協働で進められている。</p> <p>【表：各種委員会】</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>教務委員会</td> </tr> <tr> <td>ファカルティ・ディベロップメント委員会</td> </tr> </table> | 教務委員会 | ファカルティ・ディベロップメント委員会 |
| 教務委員会               |   |       |                     |
| ファカルティ・ディベロップメント委員会 |   |       |                     |

|               |  |          |         |         |       |            |             |         |               |               |  |
|---------------|--|----------|---------|---------|-------|------------|-------------|---------|---------------|---------------|--|
|               | <table border="1"> <tr><td>入試・広報委員会</td></tr> <tr><td>キャリア委員会</td></tr> <tr><td>学生支援委員会</td></tr> <tr><td>図書委員会</td></tr> <tr><td>人権・同和推進委員会</td></tr> <tr><td>グローバル化推進委員会</td></tr> <tr><td>教職支援委員会</td></tr> <tr><td>教員養成カリキュラム委員会</td></tr> <tr><td>教員免許更新講習実施委員会</td></tr> </table>  | 入試・広報委員会 | キャリア委員会 | 学生支援委員会 | 図書委員会 | 人権・同和推進委員会 | グローバル化推進委員会 | 教職支援委員会 | 教員養成カリキュラム委員会 | 教員免許更新講習実施委員会 |  |
| 入試・広報委員会      |  |          |         |         |       |            |             |         |               |               |  |
| キャリア委員会       |  |          |         |         |       |            |             |         |               |               |  |
| 学生支援委員会       |  |          |         |         |       |            |             |         |               |               |  |
| 図書委員会         |  |          |         |         |       |            |             |         |               |               |  |
| 人権・同和推進委員会    |  |          |         |         |       |            |             |         |               |               |  |
| グローバル化推進委員会   |  |          |         |         |       |            |             |         |               |               |  |
| 教職支援委員会       |  |          |         |         |       |            |             |         |               |               |  |
| 教員養成カリキュラム委員会 |  |          |         |         |       |            |             |         |               |               |  |
| 教員免許更新講習実施委員会 |  |          |         |         |       |            |             |         |               |               |  |
| 2-2-②         | <p>&lt;学修支援に関する方針・計画・実施体制&gt;</p> <p>1. 学修支援体制</p> <p>「学生支援規程」ならびに「学生支援委員会規程」に基づき、各学科（専攻・コース）から選出された学生支援委員及び学生支援センター長と副センター長の教育職員、課長等の事務職員からなる学生支援委員会を設け、学生組織・正課外活動、経済支援、健康支援、厚生補導や、その他の支援について協議・審議等を行っている。</p> <p>2. 障がい学生支援</p> <p>学生支援委員会のメンバーや教務部等の関係部局から、学生支援センター長が「障がい学生の修学等の支援に関する規則」に基づく学生支援小委員会を招集し、授業配慮申請のあった病弱虚弱、障がい学生個別に、希望する合理的配慮の実現性や具体的な支援内容について協議・審議等を行っている。</p> <p>3. 学生支援委員会開催実績</p> <p>学生支援委員会は11回開催した。大学定着支援（退学防止）、学生指導、学内奨学金、授業配慮申請、懲戒処分、敷地内全面禁煙、性の多様性、ハラスメント等について協議した。</p>   |          |         |         |       |            |             |         |               |               |  |
|               | <p>&lt;障がいのある学生への配慮&gt;</p> <p>「障がい学生の修学等の支援に関する規則」に基づき、授業配慮申請の申し出のあった学生に対して合理的配慮の提供を行っている。配慮の内容については、学生支援委員会のメンバーや教務部等の関係部局から学生支援センター長が学生支援小委員会（ケース会議）を招集し、授業配慮申請の申し出のあった学生個々が希望する合理的配慮の実現性や、具体的な支援内容について協議・審議等を行っている。</p> <p>&lt;オフィスアワー制度&gt;</p> <p>オフィスアワー制度を全学的に実施している。全専任教員へオフィスアワーを実施する曜日時限を自己申告してもらい、インターネット上で実施曜日時限が分かるように教員出講一覧表(1週間分)と当日の出退表示に「オ」と標記して学生が確認できるようにしている。学生は、学びや進路の悩み、学修内容などを専門の先生に個別に相談したいことがあれば、該当教員のオフィスアワーを確認したうえで直接研究室を訪ねるようホームページ等で伝えている。</p> <p>&lt;教員の教育活動の支援、TA などの活用&gt;</p> <p>1. Jump Start English</p> |          |         |         |       |            |             |         |               |               |  |

|   |   |
|---|---|
|   | <p>教員の教育活動を支援するために、入学前教育の一環として国際キャリア学科で <b>Jump Start English</b> を実施している。AO・推薦入試で合格した入学予定者を対象に国際キャリア学科の学生スタッフが教員の指導に基づいて1月～3月の間、計6回、英語による授業を行っている。</p> <p>2. ピアサポーター</p> <p>入学前にあべのハルカス近鉄本店において本学のオフィシャル・スーツの販売会のタイミングに合わせ、先輩学生であるピアサポーターがあべのハルカスサテライトキャンパス等で、入学予定者の入学前の不安等の解消を目的に出張相談会と称して開催した。入学前に先輩学生とコミュニケーションが取れる機会となっており、入学予定者に好評を得ている。また、ピアサポーターによる履修相談会を4月と9月、定期試験前相談会を7月と1月に開催した。4月の履修相談会及び7月の定期試験相談会は新入生による相談が多いが、9月の履修相談会及び1月の定期試験相談会については、新入生にとって慣れもあってか利用者は減っている。2月には関西大学にて、ピアサポーターの共同研修会が実施され、本学のピアサポーターが参加した。他大学の学生と交流ができ、今後他大学の取り組みの中で良いものは導入するなど、新たな取り組みに期待している。</p> <p>3. リメディアル教員</p> <p>授業での質問に対応するために英語と国語のリメディアル教員をそれぞれ週1回ずつラーニング・コモンズに配置している。日本学科と連携し授業での補習的要素で、国語のリメディアル教員が対応している。英語については経営学部の海外インターンシップの渡航前の事前学習のサポートを行った。</p> <p>&lt;退学者への対策&gt;</p> <p>欠席が目立つ学生に対し、電話連絡等で状況を確認し、場合によっては保護者にも状況を説明し、事情を聞くこともある。また、退学希望の学生に対しては、出来るだけ面談時間をとって、丁寧に面談をしている。また、年々増加傾向にある、心に問題を抱えている学生に対しても、学生相談室のカウンセラーが面談を行い、場合によっては情報共有を行っている。</p> |
| <p>長所・特色《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの</p> |   |
| 2-2-①   | <p>教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備については、本学では多くの各種委員会において、事務職員も運営に参画している。なお、これらの委員会が中心になり学修支援及び授業支援を企画、管理、運営しており、構成員である事務職員から担当課に報告がなされ、実務作業が教員と職員の協働で進められている。</p>   |
| 2-2-②   | <p>障がいのある学生へは、「障がい学生の修学等の支援に関する規則」に基づき、授業配慮申請の申し出のあった学生に対して合理的配慮の提供を行っている。配慮の内容については、学生支援委員会のメンバーや教務部等の関係部局から学生支援センター長が学生支援小委員会（ケース会議）を招集し、授業配慮申請の申し出のあった学生個々が希望する合理的配慮の実現性や、具体的な支援内容について協議・審議等を行っている。</p>  |

### 3. 改善・向上方策（将来計画）

改善すべき点および向上方策（将来計画）について、学内体制や改善プロセスを示しながら、具体的に記載してください。

| 項目 No. | 改善・向上方策（将来計画）《箇条書き》  |
|--------|--|
| 2-2-①  | 「和の精神Ⅰ」・「和の精神Ⅱ」は新入生全員が一堂に会し受講するため、毎年懸案事項が発生するので、教員と職員の連携を深めていくため、定期的に行われる宗教委員会や仏教文化研究所員等を通して、共通認識を持って対処していく。なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染防止の対策も講じながら実施していく。   |
| 2-2-②  | 支援を必要とする障がい学生が年々増加傾向にあるため、支援の質をより向上させて、対応していくために支援担当者の増員等検討する。<br>令和元年度の Jump Start English の参加者数は、入試日程が変更になり、1月～3月の6回のみの実施となった。対象者129名の内、参加した入学予定者は45名（参加率35%）であった。昨年よりも実施回数が少ないにも関わらず参加人数にあまり差がなく、必要性が証明された。よって、今後更に実施内容を見直し、少ない回数でも高い満足度が得られるようにする。 |

## 2-3 キャリア支援

### 1. 自己判定

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」

「D：実行していない」の4段階で記載してください。

| 項目 No. | <上段> 評価の視点   | 自己判定 |    |
|--------|--|------|----|
|        | <下段> 自己判定の留意点  | 個別   | 総合 |
| 2-3-①  | 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備<br>■インターンシップなどを含め、キャリア教育のための支援体制を整備しているか。<br>■就職・進学に対する相談・助言体制を整備し、適切に運営しているか。 | A    | A  |

### 2. 自己判定の理由

対象年度における取り組みを自己点検・評価し、「事実の説明」として第三者が理解できるように、根拠資料を用いて項目毎に具体的に記載してください。また、長所・特色も記載してください。

| 項目 No. | 事実の説明 及び 自己評価《箇条書き》  |
|--------|--|
| 2-3-①  | <キャリア支援の体制><br>1. 本キャンパスにおける支援体制<br>キャリア教育のための支援体制は、キャリアセンター（就職課）、教職教育推進センター（教職教育推進課）、エクステンションセンター（エクステンション課）を中心として整備しており、就職、進学、資格・免許取得支援のほか、キャリア科目やガイダンス、対策講座の実施など行っている。民間企業、公務員、福祉施設、保育園・幼稚園などへの就職に対する相談は、キャリアセンターにてセンター長、副センター長及び9名の職員が行っている。なお、副センター長は教員である。職員が各学科教員と常に情報共有できるように学科担当制をとっており、学生の内定状況の把握はもちろん、就職活動の進捗確認が常に行え、早期から未決定者支援に取り組むことができている。また、教職支援に対する相談・助言体制は、教職 |

教育推進センターにセンター長と副センター長、及び教育学部教員 5 名が常駐し、常に指導・相談ができる体制を組み支援している。同時に教職教育推進課事務職員が各教員と連携し、情報共有はもちろん後方支援としての体制も整えている。

## 2. サテライトキャンパスにおける支援体制

就職活動拠点として利便性の高い、あべのハルカス 23 階に「サテライトキャンパス」を設置し職員 3 名が常駐している。学生からの相談や応募書類の添削、模擬面接練習、企業採用担当者を招聘しての説明会など、本キャンパスと同様の支援を実施している。

### 【キャリアセンター】

<キャリア支援の取り組み>

#### 1. キャリア科目

令和元年度（2019 年）からキャリア科目の見直しを行い、1 年次夏学期「キャリアデザイン I」と 3 年次冬学期「キャリアゼミ実践演習」を必修科目とした。狙いは、入学段階で自身のキャリア（＝卒業後の進路）への意識づけを行い、目標を持ち充実した学生生活を送ることを教授する。同時に、学修成果の可視化のための「学修ポートフォリオ」の記入も開始した。1 年次夏学期「キャリアデザイン I」における学修ポートフォリオの記入状況は表 1 のとおりである。また、2 年次「キャリアマネジメント I・II」では、アクティブ・ラーニングを中心とした内容の検討、3 年次夏学期「キャリアゼミ」ではインターンシップに特化した授業への転換を目指す。また、3 年次冬学期「キャリアゼミ実践演習」の必修化においては、就職希望学生全員と接点を持つことを最大の目的として、就職決定率 100%を目指す。なお、令和元年度（2019 年）キャリア科目の履修者数（履修率）は、下記、表 2（夏学期）及び表 3（冬学期）のとおりである。

表 1. 「キャリアデザイン I」における学修ポートフォリオ記入状況

| 学部   | 学科<br>(専攻) | 在籍学生数 | 履修学生数 | 記入学生数 | 履修学生数に<br>おける記入率 |
|------|------------|-------|-------|-------|------------------|
| 人文社会 | 日本         | 102 人 | 102 人 | 88 人  | 86%              |
|      | 国際キャリア     | 92 人  | 91 人  | 85 人  | 93%              |
|      | 社会         | 183 人 | 183 人 | 177 人 | 97%              |
|      | 人間福祉       | 71 人  | 71 人  | 67 人  | 94%              |
| 教育   | 教育         | 218 人 | 5 人   | 5 人   | 100%             |
| 経営   | (公共経営)     | 40 人  | 39 人  | 36 人  | 92%              |
|      | (企業経営)     | 105 人 | 103 人 | 95 人  | 92%              |
| 合計   |            | 811 人 | 594 人 | 553 人 | 93%              |

表 2. 令和元年度（2019 年）キャリア科目夏学期履修者数（／履修率）

| 学年   | 科目名          | 令和元年度         | 平成 30 年度      |
|------|--------------|---------------|---------------|
| 1 年次 | キャリアデザイン I   | 594 人 (69.4%) | 702 人 (84.9%) |
| 2 年次 | キャリアマネジメント I | 341 人 (53.7%) | 417 人 (62.2%) |
| 3 年次 | キャリアゼミ       | 575 人 (55.8%) | 453 人 (46.1%) |

表 3. 令和元年度（2019 年）キャリア科目冬学期履修者数（／履修率）

| 学年   | 科目名         | 令和元年度        | 平成 30 年度     |
|------|-------------|--------------|--------------|
| 1 年次 | キャリアデザインⅡ   | 93 人（11.0%）  | 664 人（77.9%） |
| 2 年次 | キャリアマネジメントⅡ | 106 人（12.6%） | 311 人（44.2%） |
| 3 年次 | キャリアゼミ実践演習  | 337 人（32.2%） | 240 人（24.6%） |

※表 2・表 3 の履修率は各学年の在学者数より算出

## 2. インターンシップ参加者の増加

インターンシップ参加者の多くは 3 年次生となるので、キャリア科目「キャリアゼミ」履修学生への案内を強化するとともに、履修していない学生のために、キャリアセンターカウンターをインターンシップ相談窓口として開設し、インターンシップコーディネーター 1 名（専門員）を配置して、年間を通じて相談に対応している。その結果、夏インターンシップ決定者は 379 人（下記、表 4）で、前年度と比較して 58 人増となった。尚、経営学部オールインターンシップについても教員と連携して実施を完遂している。

表 4. 令和元年度（2019 年）夏インターンシップ決定者数（延べ人数）

| 窓口                  | 提携先              | 令和元年度 | 平成 30 年度 |
|---------------------|------------------|-------|----------|
| コーディネート先            | 大学コンソーシアム大阪      | 10 人  | 9 人      |
|                     | 堺・南大阪地域大学コンソーシアム | 12 人  | 20 人     |
|                     | 和歌山県経営者協会        | 7 人   | 12 人     |
| キャリアセンター独自求人        |                  | 156 人 | 117 人    |
| 経営学部オールインターンシップ（授業） |                  | 117 人 | 113 人    |
| 上記以外                |                  | 77 人  | 50 人     |
| 合計                  |                  | 379 人 | 321 人    |

※2019 年 4 月～同年 9 月末集計

## 3. 教職協働の取り組み

教職協働の取り組みとして、各学科より選出された教員とキャリアセンター長及びキャリアセンター職員で構成されるキャリア委員会を令和元年度は 9 回開催し、学生のキャリア支援に対する課題の共有や改善に向けての情報交換を行っている。また、各学生の就職活動の進捗を毎週土曜日にゼミ担当教員に配信し、最新の情報を常に共有している。

## 4. 自立支援への取り組み

令和元年 11 月 28 日に「支援を要する学生のための就職ガイダンス」を実施した。参加者は 9 名（うち 5 名は保護者）で、就職活動に向けての心構えと準備について丁寧に説明した。ガイダンス終了後には面談を実施し個別の状況把握に努めた。その上で、卒業後の目標を設定し、就職活動が進んでいない学生には、大阪府が実施する就職直結型の職場体験プログラムの案内や、あべの就労移行支援事業所の見学会へ誘引した。キャリアセンターでは学内支援行事はもちろん外部機関の行う行事への参加促進を積極的に行い就職決定へのサポ

ートを行っている。

【教職教育推進センター】

1. 教員採用試験対策におけるガイダンスや説明会について

教育学部及び人文社会学部の教員志望者に対して、教員採用試験現役合格に向けた早期取り組みや意識付けのため、各学年対象の教員ガイダンスや説明会等を実施している。大学3年生がメイン対象の教師塾説明会や、大阪府、大阪市等の各教育委員会担当者による教員採用試験説明会、卒業生教員による面接練習会や相談会、教員採用試験合格者による激励会や合格体験談発表会などを段階的に開催し、教員志望者への助言と低学年次からのモチベーションの向上を図っている。

2. 各種対策講座の実施

同様に、入学時から教員採用試験現役合格に向けた各種対策講座を実施している。具体的には、1年生時には、基礎学力向上を目的とした「教養教育講座」、2年生以上には、それぞれの実力に合わせて「教員採用試験対策夏期集中講座」「同春期集中講座」など、現役合格に向けて入学時から計画的に対策講座を実施している。

3. 教員採用試験結果

以上のような取り組みの結果、令和元年度の教員採用試験においては、小学校 58 名合格（実数 52 名）、中学校 8 名合格（実数同じ）、養護教諭 3 名合格（実数同じ）、計 69 名合格（実数 63 名）している。なお、前年度は小学校 70 名（実数 65 名）、中学校 11 名（実数 10 名）、養護教諭 4 名（実数同じ）合格となった。

4. 学校インターンシップ

教育学部 2 年生において、実際の学校現場を体験することで実践的な指導力を養うことを目的に「学校インターンシップ（学校実地演習）」を、夏学期の毎週金曜日に実施し、引き続き冬学期も同校園でのボランティア活動が行えるよう制度化し、年間を通じた学校現場での学びにより教員としての資質と能力の向上をめざしている。また、従来から実施している羽曳野市、藤井寺市との連携をより密にしたことに加え、近隣の各教育委員会の希望者に対して「学校インターンシップ（学校実地演習）」の説明会を実施し、昨年の 2 市（羽曳野市・藤井寺市）に松原市・富田林市・大和高田市・和歌山市・橋本市が加わり、そのほか登録校、地元校へ計 177 名の 2 年生（教育学部 2 年生全体の 79.0%）が参加した。

表 1. 学校インターンシップ（学校実地演習）履修者数

| 年度     | 令和元年度 |      |      |      | 平成 30 年度 |      |      |      |
|--------|-------|------|------|------|----------|------|------|------|
|        | 教初    | 教中   | 教健   | 合計   | 教初       | 教中   | 教健   | 合計   |
| 在籍数    | 152   | 35   | 37   | 224  | 170      | 43   | 41   | 254  |
| 履修人数   | 129   | 34   | 14   | 177  | 134      | 40   | 33   | 207  |
| 割合 (%) | 84.9  | 97.1 | 37.8 | 79.0 | 78.8     | 93.0 | 80.5 | 81.5 |

長所・特色《箇条書き》 \*先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの

2-3-①

【キャリアセンター】

1. キャリア科目におけるシラバスの検討

キャリア科目の質的向上を図ることを目的に、キャリア委員の教員による授業見学（リフレクション・ペーパーの回収及び聞き取り）や、本学の卒業生及びその卒業生が在職する企業からの評価（四天王寺大学の教育目標達成状況の調査）を検証し、その結果を委託先と共有し内容の検討を行っている。具体的には、キャリア委員である教員からの意見や要望は、委託先外部講師へ伝え授業の質向上を図るとともに、企業から特に評価の低かった項目はシラバス策定に反映している。

## 2. 経営学部オールインターンシップ

経営学部経営学科企業経営専攻では、3年生全員が夏学期にインターンシップへの参加を授業（必修科目）として実施している。

## 3. サテライトキャンパスの設置

あべのハルカス 23 階に設置しているサテライトキャンパスは、利便性の高さから、学生には就職活動のみならず1年次から自習など幅広く利用されている。また、就職活動（既卒生含む）に必要な証明書（卒業証明書や単位取得証明書、健康診断証明書等）の即時発行が行える環境を整えているのも大きな特徴である。加えて、本学を卒業した方の再就職支援（概ね3年以内の卒業生を対象としている）も行っている。なお、年間の延べ来訪者数は下記、表5のとおりである。

表5. サテライトキャンパス来訪者数（延べ人数）

| 来訪者   |         | 令和元年度   |
|-------|---------|---------|
| 本学学生  | 大学1年    | 376人    |
|       | 大学2年    | 369人    |
|       | 大学3年    | 1,942人  |
|       | 大学4年    | 3,775人  |
|       | 短大1年    | 50人     |
|       | 短大2年    | 135人    |
| 本学関係者 | 教職員など   | 616人    |
| その他   | 高校生     | 208人    |
|       | 団体利用者   | 2,142人  |
|       | 企業関係者   | 200人    |
|       | 一般（卒業生） | 555人    |
|       | 一般      | 279人    |
| 合計    |         | 10,647人 |

### 【教職教育推進センター】

単に教員採用試験に合格すればよいというだけではなく、実践的な指導力を備えた教員を養成するため、合格者及び講師希望者には4月から先生として教壇に立つ際の学級経営、保護者対応、学級通信などの実践講座や卒業生現役教員との座談会を開催するなど、様々なプログラムによる教員志望者への支援を実施している。

来年度教員採用試験受験予定の3年生を対象に、学生自身が現時点における実力を客観的に把握できるように、2月に模擬試験を無料で実施している。更に、5月には同じく4年生を対象に無料で実施し、直前の実力判定とその対策としている。



### 3. 改善・向上方策（将来計画）

改善すべき点および向上方策（将来計画）について、学内体制や改善プロセスを示しながら、具体的に記載してください。

| 項目<br>No. | 改善・向上方策（将来計画）《箇条書き》   |
|-----------|---|
| 2-3-①     | <p><b>【キャリアセンター】</b></p> <p>1. 就職希望率を高め、かつ就職決定率を高める施策</p> <p>就職希望率を高める取り組みとして、2年次「キャリアマネジメント」において、職業観の醸成を目的に、日経新聞社のコンテンツを加え業界研究を推し進める。また、3年次冬学期「キャリアゼミ実践演習」の必修化に向けて、習熟度別クラス編成を計画しているが、クラス決定の材料となる「行動量」を如何に計るか（可視化できるか）が課題である。そのために「学修ポートフォリオ」をどのように活用するかを検討が必要である。</p> <p>2. インターンシップ推進について</p> <p>低年次生のインターンシップ参加を推し進めるためには、より多くの受け入れ先の確保が必要である。その上で、経営学部オールインターンシップや日本学科インターンシップの他、次年度からは、全学科対象の国内実地研修Ⅰ・Ⅱなど、インターンシップの授業（単位）化が始まる。そのため、事前研修から実習内容の充実（受け入れ先との協議及び連携）、事後研修まで体系化して行うとともに、履修学生の評価を適切に行う仕組みの構築が必要である。一方、自由応募（大学を経由せずに就職サイト等を使って探す方式）でインターンシップに参加するケースも増加傾向にあるので、参加企業の見分け方、エントリーシートや面接などの選考通過のためのガイダンスなど支援強化が必要である。</p> <p>3. 自立支援への取り組み</p> <p>支援を要する学生の早期把握と必要に応じて障害者手帳取得へのアドバイスを如何に行うかが課題と言える。この点、学生支援センター学生相談室の専門員（心理士、看護師）と連携し、入学時から自立・就職支援体制の構築を目指す必要がある。</p> <p><b>【教職教育推進センター】</b></p> <p>教員をめざす現役学生に対し、多様化している学校現場の情報提供や卒業生教員との相互の情報共有・支援を含め、さらなる連携体制を構築し強化していくことが課題であり、そのためのシステム作りを図る。</p> <p>「学校インターンシップ（学校実地演習）」は、夏学期は単位認定、冬学期はボランティアであったが、来年度から通年の単位認定の授業科目「インターンシップ」「スクールサポーターⅠ」となるため、それに伴う課題点の検証を進めていく。</p> <p>インターンシップから配属実習に向けて、実習校と学生とのマッチングが今後の課題となってくる。そのため、より多くの各自治体の教育委員会との連携が重要となり、さらなる協力体制を築ける教育委員会の拡充が必要となってくる。</p> |

## 2-4 学生サービス

### 1. 自己判定

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記載してください。

| 項目<br>No. | <上段> 評価の視点  | 自己判定 |    |
|-----------|---|------|----|
|           | <下段> 自己判定の留意点   | 個別   | 総合 |
| 2-4-①     | <p>学生生活の安定のための支援</p> <p>■学生サービス、厚生補導のための組織を設置し、適切に機能しているか。</p> <p>■奨学金など学生に対する経済的な支援を適切に行っているか。</p> <p>■学生の課外活動への支援を適切に行っているか。</p> <p>■学生の心身に関する健康相談、心的支援、生活相談などを適切に行っているか。</p> | A    | A  |

## 2. 自己判定の理由

対象年度における取り組みを自己点検・評価し、「事実の説明」として第三者が理解できるように、根拠資料を用いて項目毎に具体的に記載してください。また、長所・特色も記載してください。

| 項目<br>No. | 事実の説明 及び 自己評価《箇条書き》   |
|-----------|---|
| 2-4-①     | <p>&lt;学生サービス、厚生補導のための組織の設置及び機能&gt;</p> <p>① 学生支援センター</p> <p>学生支援規程に基づき、「学生生活」「学生相談」「健康相談」「国際交流」の4領域における、学生の成長と自立に資する能力開発支援及び生活全般に関する学生支援を行っている。また、学科教員・事務の各部署・保護者との連携を行い、退学に繋がることのないよう学生の見守りを強化している。</p> <p>学生証発行、課外活動支援、奨学金、授業料分納、学籍異動（休学、退学等）、学生寮・下宿紹介、アルバイト紹介、ボランティア紹介、スクールバス、学生駐車場の利用、通学定期、遺失物・拾得物などの学生生活全般について、学生支援を行っている。学生を取り巻く社会環境はより厳しい状況となりつつある中で、インターネット利用に関するマナーや悪徳商法・防犯上の安全対策、喫煙・飲酒等の健康管理に関する留意事項も積極的に伝えている。</p> <p>② グローバル教育センター</p> <p>令和2年4月よりこれまでの学生支援センター内に設置していたランゲージプラザ i-Talk をグローバル教育センターとして設置し、海外の大学、高等教育機関との交流の促進を図り、海外からの留学生及び研究者・教員等の受け入れ、留学・海外研修に関する研修先と奨学金情報の案内や必要な手続きを支援している。また、海外インターンシップのサポート、実践的な外国語運用能力を身につけることを目的としたネイティブスピーカーによる語学レッスンの開催、さらに、実際に海外で生活する学生の相談や安全情報等を提供するなど、海外で安心して留学・研修生活を送るための支援を行っている。新入生には「海外留学生・海外研修の手引き」を配布し、入学時の早い段階から留学等に関する情報提供を行っている。</p> <p>③ 保健センター・学生相談室</p> <p>保健センター内に学生相談室を設け、学生のメンタルヘルスケアのためのカウンセリング体制を整えている。</p> <p>&lt;学生サービス・厚生補導&gt;</p> <p>学生証発行、課外活動支援、奨学金、授業料分納、学籍異動（休学、退学等）、学生寮・下宿紹介、アルバイト紹介、ボランティア紹介、スクールバス、学生駐車場の利用、通学定期、</p> |

|  |   |
|--|---|
|  | <p>遺失物・拾得物、などの学生生活全般について、学生支援を行っている。</p> <p>「学生支援規程」ならびに「学生支援委員会規程」に基づき、各学科（専攻・コース）から選出された学生支援委員及び学生支援センター長と副センター長の教育職員、課長等の事務職員からなる学生支援委員会を設け、学生組織・正課外活動、経済支援、健康支援、厚生補導や、その他の支援について協議・審議等を行っている。</p> <p>&lt;学内奨学金による経済的支援&gt;</p> <p>本奨学金は「奨学金規程」に基づき、(1)学業成績が特に優秀である者、(2)学業成績が優秀で、経済的理由により修学が困難である者、(3)経済的理由により修学が著しく困難であるが、修学意欲がある者に対して奨学金を給付している。</p> <p>また、家計支持者の死亡や失職によって、家計が急変した家庭を対象にした「緊急・応急奨学金制度」も設けており、家計急変後も修学が継続できるよう経済支援を行っている。</p> <p>&lt;学生の課外活動への支援&gt;</p> <p>本学の体育会・文化会クラブ、同好会、サークル団体ならびに学生運営委員会に対し、有意義な活動が行えるよう、下記の支援を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. クラブ活動参加学生の退学率が低いことから「課外活動ハンドブック」を作成し、新入生へ配布を行い、課外活動への参加を促進している。</li> <li>2. 年間に数回、クラブ団体の幹部学生と面談を行い、活動状況の確認を行うとともにクラブでの問題点等を聴取し、活動場所および備品等の活性化を図る。</li> <li>3. 月一回開催される「クラブ部長定例会議」において、様々な情報提供および指導事項、連絡事項等を発信し、情報共有を図る。</li> <li>4. 後援会の支援により、課外活動団体の「大会・地域貢献等活動遠征費補助」「課外活動活性化備品購入費補助」を行い活動の支援を行っている</li> </ol> <p>&lt;学生の心身に関する健康相談&gt;</p> <p>保健センターでは、毎年実施する学生定期健康診断で基礎疾患の把握を行い、日常生活での配慮について相談の機会を設けている。加えて、応急処置や体調不良等による静養、疾病の予防等に関する情報提供を行うなど、より専門的な立場から学生が安定した学生生活を送れるよう校医、保健師、看護師等が業務にあたっている。また、保健センター内に学生相談室を併設し、心の問題にも対応している。平成 30 (2018) 年度から カウンセラーを 1 名体制から 3 名体制に増員しより細やかな相談に応じている。</p> |
|--|---|

### 3. 改善・向上方策（将来計画）

改善すべき点および向上方策（将来計画）について、学内体制や改善プロセスを示しながら、具体的に記載してください。

| 項目 No. | 改善・向上方策（将来計画）《箇条書き》  |
|--------|--|
| 2-4-①  | <p>学生への奨学金の情報は、主に学生ポータルサイト(IBU.net)を通じて提供しているが、担任へ学生との面談を依頼し現状把握に努め、経済的に困窮している学生に対して状況に応じた奨学金情報の提供を行う。</p> <p>また、保護者宛に情報発信している会報誌「サットサンガ」を活用し、学内奨学金についての案内を掲載し、経済的支援情報を行う。</p> |

## 2-5 学修環境の整備

### 1. 自己判定

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記載してください。

| 項目<br>No. | <上段> 評価の視点   | 自己判定 |    |
|-----------|--|------|----|
|           | <下段> 自己判定の留意点  | 個別   | 総合 |
| 2-5-①     | 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理  | A    | A  |
|           | ■教育目的の達成のため、校地、運動場、校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、付属施設などの施設設備を適切に整備し、かつ有効に活用しているか。 |      |    |
| 2-5-②     | 実習施設、図書館等の有効活用   | A    |    |
|           | ■教育目的の達成のために、快適な学修環境を整備し、かつ有効に活用しているか。                                   |      |    |
|           | ■適切な規模の図書館を有しており、かつ、十分な学術情報資料を確保しているか。                                   |      |    |
|           | ■開館時間を含め図書館を十分に利用できる環境を整備しているか。  |      |    |
| 2-5-③     | バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性   | A    |    |
|           | ■施設・設備の利便性（バリアフリーなど）に配慮しているか。  |      |    |
| 2-5-④     | 授業を行う学生数の適切な管理   | A    |    |
|           | ■授業を行う学生数（クラスサイズなど）は教育効果を十分上げられるような人数となっているか。                            |      |    |

### 2. 自己判定の理由

対象年度における取り組みを自己点検・評価し、「事実の説明」として第三者が理解できるように、根拠資料を用いて項目毎に具体的に記載してください。また、長所・特色も記載してください。

| 項目<br>No. | 事実の説明 及び 自己評価《箇条書き》  |
|-----------|--|
| 2-5-①     | <p>1. 校地・校舎</p> <p>昭和32年（1957年）、大阪市天王寺区に四天王寺学園女子短期大学（現 四天王寺大学短期大学部）を開学。昭和42年（1967年）4月に四天王寺女子大学（現 四天王寺大学）を開設とともに羽曳野市学園前へ移転した。令和元年（2019年）度現在、大学は4学部7学科、大学院は、2研究科2専攻、短期大学部は2学科2専攻を設置している。本学の校地・校舎は、併設短期大学部と共用しており、校地面積は232,242 m<sup>2</sup>、校舎面積は77,225.54 m<sup>2</sup>（令和2年3月31日現在）で、大学設置基準にて定められている面積を満たしている。</p> <p>2. 学修環境の整備</p> <p>本学のキャンパスには、シンボリック存在の旧講堂（現在、講義室に使用）が校舎群の中心にあり、キャンパス全体に仏教的な印象を与えるものになっている。既設の校舎は明るく、落ちついた印象を与える校舎のデザインと色彩・内装の統一感、学修環境に合わせた机・椅子の設置とオープンスペースでの机・椅子の増設、教員との対話を意識した横長の教室の採</p> |

用、採光・保温などへの配慮など、学生がキャンパスで過ごす時間を快適なものにする工夫を施している。また、学舎、運動場のほか、学生用駐車場・駐輪場を整備し、学生の通学手段に便宜を図り、学内各所の設備において耐用年数を超え使用している物については適宜更新し、適切な運営・管理を行っている。

(1) 教室等

基礎教育科目、共通教育科目を中心として、大学と短期大学部と共用する。これら教室の数と面積を種別で分類すると次のようになる。

| 機能       | 室数  | 面積 (㎡)    | 収容人員 (人) |
|----------|-----|-----------|----------|
| 講義室      | 68  | 12,057.24 | 9,061    |
| 演習室      | 64  | 3,083.45  | 1,068    |
| 実験・実習室   | 37  | 3,917.70  | 564      |
| 情報処理学習施設 | 2   | 436.60    | 80       |
| 研究室      | 194 | 4,446.09  | 206      |

(2) 看護棟（講義室、実習室、研究室等）

平成 31 (2019) 年 4 月に看護学部を設置し、看護棟（総面積 4,058.10 ㎡）が竣工した。同学舎には、講義室（2 室）、多目的講義室、カンファレンスルーム（6 室）、実習室（4 室）、シミュレーションセンター（コントロールルーム含む）、ディブリーフィングルーム、教員研究室（28 室）、教員共同研究室（3 室）、学部長室、学生用更衣室、学生ラウンジなどを整備し、教育研究を進めるために十分な施設を擁する。実習室 1・2（各 162.4 ㎡）にはベッド（20 台）、沐浴槽や水道設備を設けている。実習室 3 にはベッド（4 台）、一般病棟 4 人部屋の場面を想定した配置にし、学内で実践に近い環境を整備。シミュレーションセンターには、高機能の患者型シミュレータを導入。実際の現場に近い環境を再現し、高い看護実践力を養成する環境を整えている。

◆看護棟の概要

|     |                          |
|-----|--------------------------|
| 1 階 | 講義室、カンファレンスルーム、更衣室、助産実習室 |
| 2 階 | 実習室、シミュレーションセンター、教員研究室   |
| 3 階 | 教員研究室、教員交流用スペース、カンファレンス室 |

(3) 運動場施設・グラウンド

運動施設は、グラウンド（30,611.60 ㎡※夜間照明設備完備）、テニスコート 4 面（2,953.60 ㎡）、総合体育館（地上 3 階建て・7,530.06 ㎡）、武道場（1,447.43 ㎡）を設けている。

(4) 総合体育館

大学創立 50 周年、短期大学部創立 60 周年記念事業として平成 27(2015)年に竣工した総合体育館（7,530.06 ㎡）は、メインとサブの両アリーナに屋内プール、ランニングトラック、ダンススタジオ、トレーニングルームを設置し、エントランスにはカフェラウンジ「cococafe（ココカフェ）」を運営、学生の憩いの場として人気の施設となっている。

2-5-②

教育目的の達成のために、快適な学修環境を整備しており、「新着図書コーナー」を図書館入口に設置し、利用者が手に取りやすい環境になっている。また、「展示コーナー」の設置とあわせて、「新入生に読んで欲しい本」のコーナーも新設し、学修意欲を高めるための整備を

|   |   |
|---|---|
|   | <p>行っている。</p> <p>また、図書館に附設する2つのラウンジを主に学習に利用できるスペースと主に展示を行うスペースに分け、グループ学習や授業の成果の発表の場を提供している。</p> <p>図書館ガイダンス（図書の検索方法や図書館の活用方法紹介等を実施）、文献検索ガイダンス（データベースを利用し、各種論文を閲覧、活用方法紹介等）を実施し、学生が学修する際の図書館での各種サービスの活用方法を伝えている。また、文献複写等申込み方法を見直し、依頼がしやすいようシステム変更を行い、利便性を高めた。</p> <p>図書館は適切な規模の図書館を有しており、地下1階の閲覧室、閲覧席は370席あり、地下2階の書庫をあわせて図書約32万冊を所蔵しており、十分な学術情報資料を確保している。データベースは13種類が利用できる。</p> <p>図書館は、平日9:00～19:30まで利用が可能で、定期試験前は9:00～20:30まで利用が可能となっており、図書館を十分に利用できる環境を整備している。</p> <p>教育目的の達成のため、コンピュータなどのIT施設も適切に整備しており、図書館1階はコンピュータ室及びAVコーナーとなっている。PC139台、DVD等の視聴が出来るスペースが8ブース16席設置され、開講時の平日は9:00～19:00、試験前は9:00～20:00まで利用できる。</p> <p>コンピュータ教室については7教室に296台のパソコンを整備し、その他の全一般教室（実習室・演習室を除く）にはパソコンと共に書画カメラやDVDプレーヤなどを設置し、様々な映像教材をプロジェクターで表示する環境を整えている。</p> |
| 2-5-③   | <p>障がい者の受入れのためのバリアフリー化は、一部（1号館3階武道場、4階設更衣室、5号館5B-303講義室）を除き整備している。また、多目的トイレは学内すべての建物（1～9号館、総合体育館、事務局棟）すべてに整備している。そのほかに点字ブロックも中長期計画に沿って継続的に設置しており、利便性にも配慮している。</p>   |
| 2-5-④   | <p>本学では、人文社会学部、教育学部、経営学部、看護学部の各学部・学科で定めている入学定員に対して、適切な人数で授業の運用ができるように、各学科・専攻において様々な人数のクラス分けを行っている。更に「時間割表」を作成する時点で受講人数を予想したうえで、1授業に対する教室の収容人員数を検討しながら教室の割当てを行っている。選択科目では予想人数を上回る場合もあるが、教室変更を行い対応している。</p> <p>各授業の使用教室においても教育効果を高めるために、すべての授業の担当教育職員から事前に使用教室や使用教材の要望等を前年度の10月より調査を始め、その要望を踏まえた上で、受講人数予想数をもとに教室割りを行っている。</p> <p>社会福祉士養成学科（人間福祉学科）及び保育士養成学科（教育学科）では、定められた受講人数を厳守している。</p> <p>その他、語学関連の授業等は、十分な教育効果が得られるように、ほとんどのクラスで適正な人数である約40名程度を目安にクラス分けを実施している。</p>   |
| <p>長所・特色《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの</p> |   |
| 2-5-②   | <p>図書館では、読書への興味を高めることを主眼とし、「全国大学ビブリオバトル」（全国規模での書評のプレゼンテーションの大会）への参加者を募り、4回の学内予選、学内決勝、近畿地区の予選に参加した。また、発表した図書の展示も行った。</p>   |

### 3. 改善・向上方策（将来計画）

改善すべき点および向上方策（将来計画）について、学内体制や改善プロセスを示しながら、具体的に記載してください。

| 項目 No. | 改善・向上方策（将来計画）《箇条書き》   |
|--------|---|
| 2-5-②  | 図書館の学修環境整え、グループ学習ができるようにするため、地下1階閲覧室のコンセントの増設や、カウンター前のスペースの整理等を行う。また、開館時間を変更して学生の利用を促進する。 |
| 2-5-③  | すべての講義室のバリアフリー化に向け、5号館の大教室である303教室の改修を検討する。   |

## 2-6 学生の意見・要望への対応

### 1. 自己判定

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記載してください。

| 項目 No. | <上段> 評価の視点  | 自己判定 |    |
|--------|---|------|----|
|        | <下段> 自己判定の留意点   | 個別   | 総合 |
| 2-6-①  | 学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用                            | B    | B  |
|        | ■学生への学修支援に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、学修支援の体制改善に反映させているか。 |      |    |
| 2-6-②  | 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用     | B    |    |
|        | ■学生生活に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、学生生活の改善に反映しているか。        |      |    |
| 2-6-③  | 学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用                            | A    |    |
|        | ■施設・設備に対する学生の意見などをくみ上げるシステムを適切に整備し、施設・設備の改善に反映しているか。      |      |    |

### 2. 自己判定の理由

対象年度における取り組みを自己点検・評価し、「事実の説明」として第三者が理解できるように、根拠資料を用いて項目毎に具体的に記載してください。また、長所・特色も記載してください。

| 項目 No. | 事実の説明 及び 自己評価《箇条書き》   |
|--------|---|
| 2-6-①  | 学生への学修支援に対する学生の意見などをくみ上げるシステムとして、令和元年12月から「学生動態調査」を実施し、学修支援の体制改善に反映させている。この「学生動態調査」は教育改革推進本部に設けた学生動態調査委員会を中心に内容を見直している。最終の回答者数については、大学は3473名中2821名（81.2%）、短期大学部は455名中431名（94.7%）となった。 |

|       |  |
|-------|--|
| 2-6-② | <p>心身に関する健康相談では、保健センターが毎年実施する学生定期健康で基礎疾患の把握を行い、日常生活での配慮について相談の機会を設けている。加えて、応急処置や体調不良等による静養、疾病の予防等に関する情報提供を行うなど、より専門的な立場から学生が安定した学生生活を送れるよう校医、保健師、看護師等が業務にあたっている。</p> <p>また、保健センター内に学生相談室を併設し、心の問題にも対応している。平成 30 (2018) 年度から カウンセラーを 1 名体制から 3 名体制に増員しより細やかな相談に応じている。</p> |
| 2-6-③ | <p>施設・設備に対する学生の意見などをくみ上げるシステムとして外部評価を実施し、学生からの意見をくみ上げ、自己点検・自己評価委員会で改善策、今後の計画等を検討するとともに、全学で共有し、施設・設備の改善に反映させている。</p>  |

### 3. 改善・向上方策（将来計画）

改善すべき点および向上方策（将来計画）について、学内体制や改善プロセスを示しながら、具体的に記載してください。

| 項目 No. | 改善・向上方策（将来計画）《箇条書き》   |
|--------|---|
| 2-6-①  | <p>「学生動態調査」について、実施期間を延長して（2月中旬から3月中旬）実施した。卒業年次生の回答率は、大学 75.8%であった。この回答率について、授業でのアナウンスや担任教員からの呼びかけ等を通じて 80%以上にする。</p>                              |
| 2-6-②  | <p>新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、今後、保護者の収入や学生のアルバイト収入が不安定となり、さらに学生生活が困難になることが予測される。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学生への経済的支援について、学生たちが安心して学業継続ができるような対策を早急に講じたい。</p> |
| 2-6-③  | <p>学生動態調査、外部評価者の意見や卒業時のアンケートを踏まえ、関係部署にフィードバックし、中長期計画の年度計画の中に目標として取り入れている。</p> <p>令和2年度4月より、学内の全面禁煙することとし、学生への禁煙指導も行っている。</p>                      |

## II. 基準2の自己評価<総評>

学生の受入れについては、各学部学科及び研究科において学則に定めた人材の養成に関する目的や教育研究目的を踏まえたアドミッション・ポリシーを策定し、適正な体制のもとに実施している。

また、学修支援やキャリア支援についても、教員と職員等の協働をはじめとする支援体制が整備され、「教務委員会規程」「学生支援委員会規程」「キャリア委員会規程」等に基づき、入学前教育、障がい者支援、オフィスアワーや担任による面談等を通じたきめ細かな支援を行っている。これらの取り組みは退学者防止と就職 100%合格を目指した支援につなげている。

学修環境においても、大学設置基準に定められている面積を有し、校地、校舎等を整備し、適切な運営・管理を行っている。そのほかに、学生動態調査等を実施し、学生サービスや学修環境の整備についても学生の意見や要望の把握と分析に努めており、回答率を高め今後充実していく。

以上のことから、「基準2. 学生」は一部の項目において自己判定で実行できていない部分はあるが、概ね満たしている。



## 令和2年度（対象：令和元年）自己点検・評価シート

|     |      |
|-----|------|
| 基準3 | 教育課程 |
|-----|------|

## I. 自己点検・評価

## 3-1 単位認定、卒業認定、修了認定

## 1. 自己判定

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記載してください。

| 項目<br>No. | <上段>  | 評価の視点  | 自己判定 |    |
|-----------|---|--|------|----|
|           | <下段>  | 自己判定の留意点   | 個別   | 総合 |
| 3-1-①     | 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知                       | ■教育目的を踏まえ、ディプロマ・ポリシーを定め、周知しているか。                             | A    | A  |
| 3-1-②     | ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の策定と周知 | ■ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を適切に定め、厳正に適用しているか。 | A    |    |
| 3-1-③     | 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用                | ■(3-1-②に同じ)  | A    |    |

## 2. 自己判定の理由

対象年度における取り組みを自己点検・評価し、「事実の説明」として第三者が理解できるように、根拠資料を用いて項目毎に具体的に記載してください。また、長所・特色も記載してください。

| 項目<br>No. | 事実の説明 及び 自己評価《箇条書き》  |
|-----------|--|
| 3-1-①     | 学部・学科・専攻・コースごとに、教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーを定め、履修要覧、大学ホームページ上で公開し、周知を図っている。  |
| 3-1-②     | 1. ディプロマ・ポリシー<br>各授業科目においてはディプロマ・ポリシーを踏まえた身に付けるべき能力を適切に定め、履修要覧および大学ホームページで公表している。                                      |
| 3-1-③     | 2. 卒業判定<br>四天王寺大学学則「第5章 履修方法および課程修了の認定」において、卒業要件を定め、それに基づいた卒業判定を厳格に実施している。卒業判定は、各学期の終わりに学部教授会・教育研究評議会において厳正に審議され承認される。 |
|           | 3. 単位認定<br>単位認定は「単位の修得および試験に関する規程」において、履修登録から単位認定までに関することを適切に定めている。単位認定の基準は、成績評価の5段階に対応させており、履修要覧に明記し、厳正に適用している。       |

|  |  |
|--|--|
| 長所・特色《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの |  |
| 3-1-②                                  | 全授業科目において身につけるべき能力を示し、履修要覧に掲載することによって、学生にとってどの科目がどのような身につくのか分かるようになっている。 |

### 3. 改善・向上方策（将来計画）

改善すべき点および向上方策（将来計画）について、学内体制や改善プロセスを示しながら、具体的に記載してください。

| 項目 No. | 改善・向上方策（将来計画）《箇条書き》  |
|--------|--|
| 3-1-①  | 全授業科目に身につけるべき能力を定めており、最も身につく能力を◎で示すように依頼をしているが、徹底されていないので引き続き依頼をしていく。                                      |
| 3-1-②  | ディプロマ・ポリシー、単位の認定および修了要件は重要事項であり、とくに新入生がよく理解しているとは言い難いため、担任教員からの指導や、学期初めのオリエンテーション等で理解を促していく。               |
| 3-1-③  | 単位認定基準・卒業認定基準・終了認定基準の適用については、大学運営システムの改編により教務委員会から各学部教授会へ、学部教授会から教育研究評議会の議を経て行われており、今後も大学全体で厳正なる審査を強化していく。 |

### 4. 根拠資料

エビデンスの例示を参考に、規程、冊子、ホームページ（URL）など、根拠資料を記載してください。

| 項目 No. | 根拠記号 | 根拠資料の名称  |
|--------|------|--|
| 3-1-①  |      | 四天王寺大学学則第 15 条<br>( <a href="http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/gakusoku.html">http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/gakusoku.html</a> )  |
|        |      | 履修要覧<br>( <a href="http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/taiouhyou/etc/4-d01.pdf">http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/taiouhyou/etc/4-d01.pdf</a> )                      |
| 3-1-②  |      | 四天王寺大学学則第 15 条<br>( <a href="http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/gakusoku.html">http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/gakusoku.html</a> )  |
|        |      | 学生便覧 p.86-87   |
| 3-1-③  |      | 履修要覧<br>( <a href="http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/taiouhyou/etc/4-d01.pdf">http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/taiouhyou/etc/4-d01.pdf</a> )                      |
|        |      | 単位の修得及び試験に関する規程 身につけるべき能力<br>( <a href="http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/taiouhyou/etc/4-d01.pdf">http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/docs/guide/taiouhyou/etc/4-d01.pdf</a> ) |

## 3-2 教育課程及び教授方法

### 1. 自己判定

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の 4 段階で記載してください。

| 項目 No. | <上段>              | 評価の視点                             | 自己判定 |    |
|--------|-------------------|-----------------------------------|------|----|
|        | <下段>              | 自己判定の留意点                          | 個別   | 総合 |
| 3-2-①  | カリキュラム・ポリシーの策定と周知 | ■教育目的を踏まえ、カリキュラム・ポリシーを定め、周知しているか。 | A    | A  |

|       |   |   |  |
|-------|---|---|--|
| 3-2-② | カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性<br>■カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーとの一貫性が確保されているか。  | A |  |
| 3-2-③ | カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成<br>■カリキュラム・ポリシーに即した体系的な教育課程を編成し、実施しているか。<br>■シラバスを適切に整備しているか。<br>■履修登録単位数の上限の適切な設定など、単位制度の実質を保つための工夫が行われているか。 | A |  |
| 3-2-④ | 教養教育の実施<br>■教養教育を適切に実施しているか。  | A |  |
| 3-2-⑤ | 教授方法の工夫・開発と効果的な実施<br>■アクティブ・ラーニングなど、授業内容・方法に工夫をしているか。<br>■教授方法の改善を進めるために組織体制を整備し、運用しているか。   | A |  |

## 2. 自己判定の理由

対象年度における取り組みを自己点検・評価し、「事実の説明」として第三者が理解できるように、根拠資料を用いて項目毎に具体的に記載してください。また、長所・特色も記載してください。

| 項目 No. | 事実の説明 及び 自己評価《箇条書き》   |
|--------|---|
| 3-2-①  | 学部・学科・専攻・コースごとに、教育目的を踏まえたカリキュラム・ポリシーを定め、履修要覧、大学ホームページ上で公開し、周知を図っている。  |
| 3-2-②  | ディプロマ・ポリシーに掲げる建学の精神（本学の使命）、学園訓（本学の教育目的）に基づいて教育目標が示され、各科目区分が編成されている。ディプロマ・ポリシーの「卒業時点において学生が身につけるべき能力」をカリキュラム・ポリシーで具体的な教育課程の編成・教育内容に落とし込み、一貫性が確保されている。  |
| 3-2-③  | 各学部・学科・専攻・コースともに、カリキュラム・ポリシーに即した教育課程・教育内容を編成し、実施している。シラバスについては「シラバスガイドライン」を作成し、到達目標、成績評価基準等の記載内容を示し、教員に周知している。第三者によるシラバスチェックを行い、適切な運用を図っている。単位制度の実質を保つため、シラバスにおいては授業時間外の学習を記載し、履修上限を設定している。 |
| 3-2-④  | 本学では「基礎教育科目」「共通教育科目」を教養科目として捉え、適切な教養教育を実施している。「基礎教育科目」は、学びを通して慈愛の心と利他の精神をもつ豊かな人間性を育てていく。「共通教育科目」は、基礎的な教養を涵養するために人文社会学部、教育学部、経営学部では7つ、看護学部は6つの分野に分け、それぞれの特色に応じた科目を設定し、適切な教養教育を実施している。        |
| 3-2-⑤  | 授業内容・方法の工夫を促し、シラバス上にどのような運営を実施しているか記載している。学生からの授業アンケートを各教育職員に示し、今後の改善すべき項目を報告させている。   |

|  |   |
|--|---|
| 長所・特色《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの |   |
| 3-2-③                                  | シラバスの詳細な説明を「シラバスガイドライン」にて示しているが、教育職員免許状等、資格に関わる科目については、当該担当者にシラバスに記載が必要な事項をまとめた資料を資格別に配布している。 |

### 3. 改善・向上方策（将来計画）

改善すべき点および向上方策（将来計画）について、学内体制や改善プロセスを示しながら、具体的に記載してください。

| 項目 No. | 改善・向上方策（将来計画）《箇条書き》  |
|--------|--|
| 3-2-②  | カリキュラム・ポリシーまたはディプロマ・ポリシーが改定された場合は、一貫性が確保されているかについて確認を行っていく。    |
| 3-2-③  | 免許・資格の養成カリキュラムが改訂されるごとに新規・削除項目を記載する必要があるため常に最新の情報を入手し、反映させる。   |
| 3-2-④  | 共通教育科目のキャリア系科目および初年次教育科目については、見直しの検討を行い、次回カリキュラム改定には見直し案を策定する。 |

### 3-3 学修成果の点検・評価

#### 1. 自己判定

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記載してください。

| 項目 No. | <上段>  | 自己判定 |    |
|--------|---|------|----|
|        | <下段>  | 個別   | 総合 |
| 3-3-①  | 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用                                  | A    | A  |
|        | ■学生の学修状況・資格取得状況・就職状況の調査、学生の意識調査、就職先の企業アンケートなどにより、学修成果を点検・評価しているか。 |      |    |
| 3-3-②  | 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック                        | A    | A  |
|        | ■学修成果の点検・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。                     |      |    |

#### 2. 自己判定の理由

対象年度における取り組みを自己点検・評価し、「事実の説明」として第三者が理解できるように、根拠資料を用いて項目毎に具体的に記載してください。また、長所・特色も記載してください。

| 項目 No. | 事実の説明 及び 自己評価《箇条書き》   |
|--------|---|
| 3-3-①  | 1. 学生による授業評価アンケート<br>学生自身の授業態度・学修意欲等・自宅学習時間を問う設問等を設定している。また、学生は、授業に対する意見等を具体的に自由記述欄に記載できるようにもしている。この結果を対して教員は、授業の改善を改善コメント欄に記載している。 |

|   |   |
|---|---|
|   | <p>2. PROG テスト</p> <p>PROG テスト（アセスメントテスト）を大学では1年次と3年次、短大では1年次と2年次に実施することで社会人基礎力が身についたか等を測っている。また、知識を活用して解答するリテラシーテスト、自身の経験から行動特性を導き出すコンピテンシーテストに加えて、ディプロマ・ポリシーの達成度（伸長）をはかる学科独自テストを複数設け、実施している。また、PROG テストの結果を踏まえたフィードバックとしてテスト後に担任教員が学生と面談を行い指導している。</p> <p>3. 学生動態調査</p> <p>学生の各年次の学修行動や満足度、ディプロマ・ポリシーに基づく学修成果等を調査・分析し、学内に提供すると共に学外に情報を公開している。</p> <p>4. 入学生アンケート</p> <p>学生の入学時点での学習習慣、大学への期待・不安や、受験・入学に至るまでの行動等に関する調査・分析を行っている。</p> <p>5. FactBook2019</p> <p>ホームページに学生の学修時間、満足度、学習意欲と「四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部 FactBook2019」を掲載している。FactBook2019については、少しでも可視化するためにIR・戦略統合センターより発行され、教育研究評議会へ報告し、各学部学科当にフィードバックし、経年的に把握・評価していく。</p> |
| 3-3-②   | <p>教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検は「学生による授業評価アンケート」「教員相互授業参観」により行っている。</p> <p>「学生による授業評価アンケート」の結果は各科目担当教員が結果を確認してIBU.netの改善コメント欄に入力することにより授業改善を行っている。</p> <p>「教員相互授業参観」は参観後に合評会を実施して、授業担当者と参観した教員とで意見交換を行い、授業改善に役立てている。</p>   |
| <p>長所・特色《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの</p> |   |
| 3-3-①   | <p>「学生による授業評価アンケート」は、令和元年度より全授業科目を学生のスマートフォンを使って実施した。学生は、IBU.netの「授業評価アンケート」を授業の14回目または、15回目に回答することになっており、自宅からでも回答できるようになった。授業評価アンケートは、各学期に1回実施して、教員はアンケート結果に対する改善コメントをIBU.netの授業評価アンケート改善コメント欄に入力することにより、授業改善につなげている。</p> <p>また「FactBook2019」の発行では、学生の学修時間、満足度、学習意欲さらに学生の成長実態に至るまで冊子に掲載しており、現状を把握し評価することによって、今後の改善に繋げている。</p>  |
| 3-3-②   | <p>「学生による授業評価アンケート」では、学生が授業の改善につながると思われる意見や感想、適切でなかった設備等について具体的に書くことのできる自由記述欄を設定しており、教員は、自由記述欄に記載された学生の意見等に対して、回答を改善コメント欄に記載するよう求めている。これら学生の授業評価と改善コメントは図書館で全学生、教職員が閲覧できることをIBU.netで連絡している。</p>   |

### 3. 改善・向上方策（将来計画）

改善すべき点および向上方策（将来計画）について、学内体制や改善プロセスを示しながら、具体的に記載してください。

| 項目 No. | 改善・向上方策（将来計画）《箇条書き》   |
|--------|---|
| 3-3-①  | <p>「学生による授業評価アンケート」は、従来教員につき1科目の実施にとどまっていたが、令和元年度は、全授業科目で実施したことにより、学生の学修実態がより鮮明となったが、学部・学科により課外学習時間等の格差があるため、学科及びFD委員会で検討するとともに、質問内容の精査・改善していく。</p> <p>全授業科目のアンケートは、学生にとって煩雑さや負担感が生じたものと推測できるためIBU.netによる授業評価アンケートを含む調査を実施する際には、全学的な周知体制を整えることが重要である。</p> |
| 3-3-②  | <p>「学生による授業評価アンケート」「教員相互授業参観」「FSD 研修会」は引続き継続して、授業改善に役立てていく。</p> <p>全科目において授業改善アンケートを実施し、全学的な課題等を把握したが、各授業の改善についての考察や検討が必要であり、今後は、学科単位での授業改善等、FD委員会など組織的な授業改善の取り組みを推進させていく。</p>  |

### 4. 根拠資料

エビデンスの例示を参考に、規程、冊子、ホームページ（URL）など、根拠資料を記載してください。

| 項目 No. | 根拠記号 | 根拠資料の名称   |
|--------|------|---|
| 3-3-①  |      | 授業アンケート資料   |
|        |      | PROG テスト資料  |
|        |      | 四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部 学生動態調査実施要綱   |
|        |      | 四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部 入学生アンケート実施要項   |
|        |      | Fact Book2019 ( <a href="http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/factbook.html">http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/factbook.html</a> ) |
| 3-3-②  |      | 授業アンケート資料   |
|        |      | 教員相互授業参観資料  |
|        |      | Fact Book2019 ( <a href="http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/factbook.html">http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/guide/factbook.html</a> ) |

## II. 基準3の自己評価<総評>

本学は、建学の精神（本学の使命）、学園訓（本学の教育目的）に基づいて教育目標が示され、各科目区分が編成されている。各授業科目においても身につけるべき能力としてディプロマ・ポリシーが明示され、単位認定、卒業認定、修了認定の各基準を策定しており、カリキュラム・ポリシーとの一貫性は確保されている。教育課程及び教授方法の改善・向上を図るための施策も「学生による授業評価アンケート」「教員相互授業参観」「PROG テスト」等の実施に加え、「FactBook2019」をホームページに公表し、改善・向上に役立てている。以上のように、本学の教育課程は使命・目的を実現するため、適切に編成・実施されており、「基準3. 教育課程」は基準を満たしている。

## 令和2年度（対象：令和元年）自己点検・評価シート

|     |       |
|-----|-------|
| 基準6 | 内部質保証 |
|-----|-------|

## I. 自己点検・評価

## 6-1 内部質保証の組織体制

## 1. 自己判定

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記載してください。

| 項目<br>No. | <上段>   | 評価の視点    | 自己判定 |    |
|-----------|--|----------|------|----|
|           | <下段>   | 自己判定の留意点 | 個別   | 総合 |
| 6-1-①     | 内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立   |          | A    | A  |
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>■内部質保証のための恒常的な組織体制を整備しているか。</li> <li>■内部質保証のための責任体制が明確になっているか。</li> </ul> |          |      |    |

## 2. 自己判定の理由

対象年度における取り組みを自己点検・評価し、「事実の説明」として第三者が理解できるように、根拠資料を用いて項目毎に具体的に記載してください。また、長所・特色も記載してください。

| 項目<br>No. | 事実の説明 及び 自己評価《箇条書き》  |
|-----------|--|
| 6-1-①     | <p>本学は、令和元（2019）年12月に内部質保証の方針を制定し、内部質保証における基本的な考え方のもと、組織を整備し、責任体制（役割）を確立している。</p> <p>&lt;組織の整備&gt;</p> <p>大学の使命や目的を実現し、社会の付託に応える内部質保証を担保するための自己点検・評価を大学学則、短期大学部学則第3条に規定しており、計画的かつ継続的な取り組みを主眼として組織的に進めている。</p> <p>内部質保証の取り組みを恒常的に推進するために、教育研究評議会で示された中長期計画および年度事業計画に基づき、教育研究活動を行い、自己点検・評価報告書（シート）を作成し、その結果は自己点検・評価で検証している。検証結果をふまえて、教育改革推進本部および学部、学科、部局、全学委員会活動により改善し、教職員および学生への周知を図り、内部質保証を実現している。</p> <p>&lt;責任体制（役割）&gt;</p> <p>（1）教育研究評議会</p> <p>学長を議長として、学部、学科、部局の長を中心に、内部質保証の方針をはじめ、中長期計画や自己点検・評価に係る方針、教育研究に関する重要事項を決定している。</p> <p>（2）自己点検・自己評価委員会</p> <p>常務理事を委員長として、教学推進委員長である学長を中心に、自己点検・評価報告書（シート）を検証し、教育研究評議会に報告している。また、学外有識者および学生による評価の実施、検証を行い、その結果を広く公表している。</p> <p>（3）教育改革推進本部</p> |

|  |  |
|--|--|
|  | <p>全学的な教育施策の企画・開発と教育活動の継続的な改善の推進のため、教育改革推進本部を置き、本学の教育の充実と発展に寄与している。</p> <p>(4) 学部教授会、研究科委員会、全学委員会</p> <p>学部教授会、研究科委員会および、全学委員会では、教育研究評議会で示された方針、計画に則り、教育研究活動を実行し、自己点検・評価での検証結果をふまえ、改善を図っている。</p> |
|--|--|

### 3. 改善・向上方策（将来計画）

改善すべき点および向上方策（将来計画）について、学内体制や改善プロセスを示しながら、具体的に記載してください。

| 項目 No. | 改善・向上方策（将来計画）《箇条書き》                             |
|--------|---|
| 6-1-①  | 内部質保証をさらに高めるために、内部監査の充実を図り、年度計画にしたがって内部監査を実施する。 |

## 6-2 内部質保証のための自己点検・評価

### 1. 自己判定

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記載してください。

| 項目 No. | <上段> 評価の視点  | 自己判定 |    |
|--------|---|------|----|
|        | <下段> 自己判定の留意点   | 個別   | 総合 |
| 6-2-①  | 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有   | A    | A  |
|        | <p>■内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価をどのように行っているか。</p> <p>■エビデンスに基づく、自己点検・評価を定期的実施しているか。</p> |      |    |
| 6-2-②  | IR (Institutional Research) などを活用した十分な調査・データの収集と分析                                  | A    |    |
|        | ■現状把握のための十分な調査・データの収集と分析を行える体制を整備しているか。   |      |    |

### 2. 自己判定の理由

対象年度における取り組みを自己点検・評価し、「事実の説明」として第三者が理解できるように、根拠資料を用いて項目毎に具体的に記載してください。また、長所・特色も記載してください。

| 項目 No. | 事実の説明 及び 自己評価《箇条書き》  |
|--------|--|
| 6-2-①  | <p>令和元年（2019）度は、自己点検・自己評価委員会を3回開催し、中長期計画に基づき、当該年度の学部、学科の重点施策並びに事務局各部署の事業計画における達成状況の把握と検証をはじめ、自己点検・評価シートおよび外部評価、法令遵守に関する検証を行った。</p> <p>特に、自己点検・評価シートの作成、検証については自己点検・自己評価委員会にて2度</p> |



|  |   |
|--|---|
|  | にわたって審議し、記載内容を確認するとともに教育研究の改善に役立っている。改善・向上方策の記載事項は、改善状況を改善報告書にまとめ、次年度の方針に反映させていく。加えて、自治体、教育委員会、学校・園、企業などから外部有識者を招き、本学に対する評価・助言を得るための「外部評価」を実施し、より客観的な視点を取り入れた自己点検・評価を行っている。この外部評価では、学生から授業、学生支援、就職支援等の観点別評価項目に対しても意見を求めており、外部評価で得られた貴重な意見は、ホームページでも公表し、教育研究活動、地域貢献等の改善・向上に役立っている。 |
| 6-2-②                                  | 現状把握のための十分な調査・データの収集と分析は、各種委員会がその機能を果たすとともに、平成26(2014)年12月に設置したIR・戦略統合センター(IR・戦略統合課)が中心となり進めている。IR・戦略統合センターにはIR担当教員を配置し、各部局に分散していたデータを集約し分析するとともに、学生動態調査を実施・分析するなど、データ収集・分析の体制を整備している。  |
| 長所・特色《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの |   |
| 6-2-①                                  | 外部評価者会議は、より客観的な視点を取り入れた評価として教育研究活動、地域貢献等の改善・向上に資するものであり、様々な分野にわたる外部評価者からの意見は、大きな収穫となった。   |

### 3. 改善・向上方策(将来計画)

改善すべき点および向上方策(将来計画)について、学内体制や改善プロセスを示しながら、具体的に記載してください。

| 項目 No. | 改善・向上方策(将来計画)《箇条書き》  |
|--------|--|
| 6-2-①  | 観点別自己点検・評価の実施を検討するほか、外部評価の内容、実施方法などを検討し、ピンポイントでの教育研究の改善を図っていく。 |

## 6-3 内部質保証の機能性

### 1. 自己判定

自己評価欄に「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:あまり実行していない」「D:実行していない」の4段階で記載してください。

| 項目 No. | <上段>  | 評価の視点    | 自己判定 |    |
|--------|---|----------|------|----|
|        | <下段>  | 自己判定の留意点 | 個別   | 総合 |
| 6-3-①  | 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組みの確立とその機能性  |          | A    | A  |
|        | <ul style="list-style-type: none"> <li>■自己点検・評価、認証評価及び設置計画履行状況等調査などの結果の活用により、中長期的な計画を踏まえた大学運営の改善・向上を図るなど、内部質保証の仕組みが機能しているか。</li> <li>■三つのポリシーを起点とした内部質保証が行われ、その結果が教育の改善・向上に反映されているか。</li> </ul> |          |      |    |

## 2. 自己判定の理由

対象年度における取り組みを自己点検・評価し、「事実の説明」として第三者が理解できるように、根拠資料を用いて項目毎に具体的に記載してください。また、長所・特色も記載してください。

| 項目<br>No. | 事実の説明 及び 自己評価《箇条書き》  |
|-----------|--|
| 6-3-①     | <p>本学では、「学則」第3条に基づき「自己点検・自己評価委員会規程」を制定して「自己点検・自己評価委員会」を設置しており、全学における内部質保証の推進に責任を負う役割を担っている。自己点検・評価報告書（自己点検・評価シート）は、平成27（2015）年度および平成30（2018）年度の作成により、その評価結果を周知し、学部・学科、部局において改善している。</p> <p>特に、平成27（2015）年度に受審した認証評価では、評価結果をもとに、自己点検・自己評価委員会で中長期計画に沿った当該年度の達成状況の報告と検証を行っており、改善を要する点として指摘された「経営学部経営学科の収容定員充足率が0.7倍を下回っている点」は経営学科の専攻分離を行うなどの対策を講じたほか4つの特色を打ち出し改善した。</p> <p>また、令和元（2019）年度は「外部評価」も実施し、より客観的な視点を取り入れた大学運営の改善・向上につなげている。</p> <p>内部質保証の仕組みは、本学の内部質保証の方針から明確になっており、内部質保証における組織と役割によってPDCAサイクルが機能している。</p> <p>三つのポリシーは、学部、学科ごとに定め、入学から卒業に至る学びの道筋を明確にしている。年度初めに各学科でまとめた重点施策の計画は、実施状況および達成状況（結果）を点検し、自己点検・自己評価委員会で報告している。ここでの改善点は、教育改革推進本部および学部、学科、部局、全学委員会での活動により解消させるとともに、教育研究活動や学務運営の充実に反映させている。</p> <p>令和元年は、学部・研究科の「三つのポリシー」について、教育改革推進本部において見直しを行った。また、アセスメント・ポリシーを策定・公表し、PROGテストや学生動態調査などを用いて「三つのポリシー」に基づく学生の学修成果を評価するPDCAサイクルの仕組みを構築した。</p> |
|           | <p>長所・特色《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの</p>  |
| 6-3-①     | <p>教育、研究、社会貢献活動について恒常的に改善し、その質の向上を図るため、内部質保証の方針を定め、基本的な考え方のもと、内部質保証の取り組みを推進させる組織体制・役割を構築している。全学における内部質保証の推進に責任を負う組織として、自己点検・自己評価委員会があり、自己点検・評価の取り組みは、自己点検・評価報告書（自己点検・評価シート）にまとめ、ホームページで公表している。</p>   |

### 3. 改善・向上方策（将来計画）

改善すべき点および向上方策（将来計画）について、学内体制や改善プロセスを示しながら、具体的に記載してください。

| 項目<br>No. | 改善・向上方策（将来計画）《箇条書き》  |
|-----------|--|
| 6-3-①     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アセスメント・ポリシーに基づくアセスメントについては、毎年度終了時に実施する。ただし、アドミッション・ポリシーのアセスメントについては、次年度入試への反映を鑑み、新入生の入学後すぐにアセスメントするように学部・学科へ依頼する。</li> <li>・ 現在明示している中期計画は、平成 28（2016）年から 5 年間に区切りとしており、新たな中期計画を策定していく。学内外の環境の変化を予想し、適切な中期計画を策定するとともに、さらに高い内部質保証を目指し、組織体制および役割をこれまで以上に機能させ、積極的な情報公開を行っていく。</li> </ul> |

## II. 基準6の自己評価＜総評＞

本学では、令和元（2019）年 12 月に内部質保証の方針を制定し、内部質保証における基本的な考え方や組織体制、役割を確立している。学部、大学院、事務組織など大学全体にわたる内部質保証を行うために、自己点検・自己評価委員会で自己点検・評価を実施し、自己点検・評価シートの検証や外部評価の結果の検証を行っている。これにより示された結果は、教育開発推進本部や学部教授会、全学委員会によって改善が図られ、3 つのポリシーをはじめ、中長期計画や年度事業計画に反映させている。

また、IR・戦略統合センターは、全学的な観点からの分析等を行い、学長・理事長の教学・経営上の意思決定や、教学・経営の両面における各種改善をサポートする情報提供、政策提案に取り組んでいる。

以上のことから、内部質保証における体制が整えられ、大学全体の PDCA サイクルの仕組みが実現し、評価結果の活用と改善点における具体的な取り組みを行うことで内部質保証は有効に機能しており、「基準.6 内部質保証」の趣旨を満たしていると評価できる。